

科目名	科目担当代表教員	ページ数
解剖学Ⅲ	金子 翔拓	2
作業分析学実習Ⅰ	金 京室	6
高齢期作業療法治療学特論	玉 珍	11
精神障害作業療法治療学	大川 浩子	15
キャリア形成	木村 悠里菜	20
キャリアビジョン	金子 翔拓	24
リハビリテーション工学	金谷 匡紘	28
運動学実習	金 京室	32
リハビリテーション障害学	金 京室	37
救急医学	俵 敏弘	41
言語障害治療学	金浜 悦子	45
小児科学	石黒 信久	49
脳神経内科学	松谷 学	53
臨床薬理学	續 佳代	58
老年医学	瀧山 晃弘	62
チーム医療概論	佐藤 明紀	66
地域包括ケアシステム論	水本 淳	70
統計と社会調査法	小田 史郎	74
作業療法研究法演習Ⅰ	金子 翔拓	79
作業療法研究法演習Ⅱ	白戸 力弥	84
作業療法管理運営・法規	大川 浩子	89
作業療法評価学実習Ⅰ	金子 翔拓	94
運動器障害作業療法学	白戸 力弥	99
機能活動代償学Ⅱ	白戸 力弥	103
高次脳機能障害作業療法治療学	金谷 匡紘	107
高齢期作業療法治療学	玉 珍	111
作業療法総合セミナーⅠ	大川 浩子	115
作業療法総合セミナーⅡ	金子 翔拓	120
身体障害作業療法治療学特論Ⅰ(運動器)	金子 翔拓	125
身体障害作業療法治療学特論Ⅱ(中枢系)	金谷 匡紘	129
生活行為向上作業療法学	金谷 匡紘	133
精神障害作業療法治療学特論	大川 浩子	137
中枢神経障害作業療法学	金谷 匡紘	141
内部障害作業療法学	金谷 匡紘	145
産業作業療法学	白戸 力弥	150
地域作業療法学Ⅰ	金 京室	154
地域作業療法学Ⅱ	佐藤 和彦	159
地域作業療法学実習	大川 浩子	163
評価実習	金子 翔拓	168
訪問・通所実習	大川 浩子	173

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学Ⅲ				ナンバリング	2204
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシー「知識・技能」の「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるために評価学を学ぶ。基礎医学的知識と臨床医学的知識を、作業療法士に不可欠な治療技術の根拠に還元できるようになるために、本講義は「解剖学を主体とした臨床学」という性格を強調する。作業療法を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけるための科目である。							
授業の概要							
臨床医学的な知識も増えている2年生において、次に必要とされるのは、「臨床的な技術を裏付ける基礎知識の確立」である。本講義では、主にリハビリテーションの対象となる疾患・障害を理解するために必要な解剖学的知識を確認・再学習し、他の医学領域科目の知識と統合し、臨床力を深めさせるような講義を展開する。1年次に学習した解剖学Ⅰ、Ⅱの理解を深め、後期開講の内部障害作業療法学の基礎となる内臓器の構造に関する学習も加える。							
到達目標							
・解剖学Ⅱで学んだ内容の理解を深めることができる。 ・遺体解剖を用いて、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解することができる。 ・リハビリテーションの治療技術への応用をイメージできるようになる。							
授業の方法							
パワーポイントと毎回配布する資料を用いて講義形式で解説する。 体験学習を通して人体について理解し解説する。							
ICT活用							
Google formのテスト作成機能を用いて練習問題や確認問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

金子翔拓:10年以上の作業療法士の実践経験があり、解剖学について幅広い知識を有している。
 白戸力弥:10年以上の作業療法士の実践経験があり、解剖学について幅広い知識を有している。
 大坂隆介:5年以上の作業療法士の実践経験があり、解剖学について幅広い知識を有している。

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験問題は講義内でフィードバックします。
 復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	遺体解剖を通して、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する。 ①上肢	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	遺体解剖を通して筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する ②下肢	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	遺体解剖を通して、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する ③体幹	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	遺体解剖を通して、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する ④脳	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	上肢の筋骨格系について学び、触診、起始停止、支配神経、作用について理解する	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	下肢の筋骨格系について学び、触診、起始停止、支配神経、作用について理解する。	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	体幹の筋骨格系について学び、触診、起始停止、支配神経、作用について理解する	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	全身の筋骨格系について理解する。	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	復習テストで評価する。復習テストの満点のうち60%以上の獲得にて単位取得と判定する	
その他	0	なし	
教科書			

使用しない。

参考文献

解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱで使用した教科書
電子書籍解剖トレーニングノート

履修条件・留意事項等

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業分析学実習Ⅰ				ナンバリング	3414
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	金 京室、渡辺 明日香、田村 健						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につける(知識・技術)、作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)、また作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につける科目でもある(知識・技術)。「作業療法概論」で学んだ基礎知識を生かして、「作業分析学実習Ⅱ」へつなげる科目である。							
授業の概要							
作業療法治療場面で用いられている作業活動について、実際に作業を行うことを通して、その実際を学ぶ。学校では臨床実習と異なり、患者に接しての活動は行えないが、それ以前に若年の健常者を対象に実習をしておくことは臨床実習の前段階としては望ましく、講義と臨床のかけ橋としての機能を果たす。							
到達目標							
1. 代表的な作業種目の分析を通し作業の治療的意味について理解する。 (1) 籐工芸や木工等、構成的作業の特徴、特性を理解する。 (2) 陶芸等、投影的作業の特徴、特性を理解する。 2. 作業種目の特性に応じて疾患に応じた対象者への作業の導入や段階づけなどを学習する。 3. 対象者に必要な作業を創出する探究心、意欲を身につける。							
授業の方法							
・実習形式(配布印刷物を用いて説明し、実習を行う)							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

金京室、渡辺明日香は、リハビリテーション病院において、作業療法士としての勤務経験があり、作業分析およびそれらの治療的意味について幅広い知識を有している。田村健は、障がい者就労支援事業所において作業療法士として勤務しており、就労支援のプログラムの一つとして陶芸などの作業を用いている。これらの経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション ・作業分析の理論と作業分析シートの書き方について学ぶ。 ・塗り絵・ちぎり絵・折り紙を行い、作業分析シートを完成する。	基礎作業学で学んだ包括的作業分析について復習しておく(90分)	作業分析シート雛形を作成する、塗り絵・ちぎり絵・折り紙の特徴を比較しながら復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	陶芸① ・地域精神療法について学ぶ ・陶芸の概要について学ぶ ・陶芸制作①:たまづくり ・陶芸制作②:ひもづくり	陶芸作品の特性について予習する(90分)	陶芸作品の特性について復習する(90分)
担当教員	金 京室、田村 健		
第3回	陶芸② ・陶芸の治療効果について学ぶ。 ・グループに分かれ、陶芸項目①②について、それぞれ「教える側」「教わる側」の役割を体験する。 ・役割体験を通して、作業の特性および対象者への作業導入方法について学習する。	陶芸の作品仕上げについて予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを作成開始する(90分)
担当教員	金 京室、田村 健		
第4回	陶芸③ ・グループに分かれ、手動ろくろ・電動ろくろのそれぞれを用いて陶芸作品制作をする。	陶芸の作品制作過程について予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを作成する(90分)
担当教員	金 京室、田村 健		

第5回	陶芸④ ・素焼きされた作品に釉薬をかけ、窯に詰める。	陶芸の作品制作過程について 予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを作成する(90分)
担当教員	金 京室、田村 健		
第6回	陶芸⑤ ・陶芸作品を完成し、作業療法として陶芸の特性について理解する。	陶芸の作品制作過程について 予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを完成する(90分)
担当教員	金 京室、田村 健		
第7回	籐工芸 ・材料の特性を理解し、「編む」という作業を体験しながら作業の仕上げを行う。	籐工芸の作品仕上げについて 予習する(90分)	籐工芸の作業分析シートを完成する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	木工 ・材料の特性を理解し、「採寸する」「切る」「組み立てる」などの作業を体験しながら作業分析を行う。	木工に使う道具名について予習する(90分)	木工に使った道具名と使い方についてリストを完成する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	ネット手芸 ・材料の特性を理解し、「採寸する」「切る」などの作業を体験しながら作業分析を行う。	ネット手芸の作品仕上げについて予習する(90分)	ネット手芸の作業分析シート作成を開始する(90分)
担当教員	金 京室		
第10回	身体機能障害者および介助者の体験 ・今まで行った作業の中から一つの作業について上記体験し、作業分析を行う。 ・介助者として注意すべきことについて確認する。	片麻痺・高齢者など身体機能障害者の特徴について予習する(90分)	作業における身体機能障害者および介助者の体験後の感想文を完成する(90分)
担当教員	金 京室		

第11回	作業療法における農耕・園芸の活用 ・農耕・園芸の特徴についての文献や農耕・園芸を用いた作業療法の事例報告を読む ・作業療法で農耕・園芸をどのように活用できるか、グループディスカッションし、発表する	園芸経験者の先輩にインタビューして、次年度の実際の作物作りについて考えておく(90分)	農耕・園芸についてのクイズや質問に答える(90分)
担当教員	渡辺 明日香		
第12回	まとめ ・各作業分析についてグループでまとめ、それぞれの治療的応用についてグループディスカッションを行い、レポート作成・発表する。	各作業分析シートを読んで、治療的応用について考察する(90分)	発表内容と質疑応答をまとめる(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポートおよびプレゼンテーション内容(70%)、授業態度(30%)	
その他	0	なし	
教科書			
作業―その治療的応用, 日本作業療法士協会, 協同医書出版社 ひとと作業・作業活動, 山根寛, 三輪書店			
参考文献			
なし			
履修条件・留意事項等			

特別な理由がない限り欠席は認めない。種目ごとに作業分析レポートを作成する。

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高齢期作業療法治療学特論				ナンバリング	3526
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	玉 珍、侘美 靖						
授業の位置づけ							
根拠に基づく作業療法の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、理論的な問題解決法を見いだせる(思考・判断・表現)科目である。「高齢期作業療法治療学」「高齢期作業療法治療学演習」で学んだ知識や経験を踏まえ、さらに高齢期の作業療法を深めていく授業である。							
授業の概要							
健常・要支援・要介護高齢者の「意味のある作業」に焦点を当てた作業療法について、症例や実際の高齢者との関わりを通じ、介護予防の視点から学習する。事例について必要な評価・治療プログラムの組み立て方を学ぶ。車椅子の選択やシーティングを通して、作業療法士の役割のひとつである環境調整についての重要性を学ぶ。							
到達目標							
・虚弱、健康な高齢者に対する予防的作業療法の重要性について理解できる ・環境調整の一つである車椅子シーティングの重要性と手段、車椅子の種類を理解する ・事例を通して、高齢期作業療法の評価、組み立て方を理解する							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料を用いた講義、学外及び学内での体験学習、学生同士のワークを実施する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当者は高齢期のリハビリテーション病院で、様々な疾患の高齢者の作業療法に従事していた経験を生かして、介護予防や車いすのシーティングなどの授業を展開する

課題に対するフィードバックの方法

レポートへのフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業オリエンテーション 座位姿勢の重要性と車いすシーティング ① 車いすの種類、車いすシーティングの重要性、不良な座位姿勢が及ぼす身体的負荷やADLへの影響を学ぶ。	高齢者の老化による姿勢変化と、不良座位姿勢による生活への影響について調べておくこと。(90分)	座位の不良姿勢が引き起こす身体面への影響や、リスクについてまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	座位姿勢の重要性と車いすにシーティング ②(玉) 実際に車いすを使つての座り比べやシート調整、クッションの違いによる座り心地の違いや座圧の変化を体験する。	高齢者の老化による姿勢変化と、不良座位姿勢による生活への影響について調べておくこと。(90分)	車椅子の種類や車椅子のシーティング方法について復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	介護予防の作業療法:要介護者増加の現状と、介護予防を目的とした作業療法介入について学ぶ	介護予防の概要および推進される背景について調べ、予習しておくこと。(90分)	介護予防的な作業療法の重要性と介入について復習すること。(90分)
担当教員	侘美 靖		
第4回	介護予防の視点で高齢者の軽スポーツ体験①(パークゴルフ場での学外授業) パークゴルフを行っている高齢者からルールを教わり一緒にプレーする。高齢者とのコミュニケーションを通じて介護予防の視点からパークゴルフの作業特性や活用方法について考察する。	高齢者の介護予防として行われている作業について事前に調べておくこと。(90分)	授業時に示すレポート課題を作成すること(90分)
担当教員			

第5回	介護予防の視点で高齢者の軽スポーツ体験②（パークゴルフ場での学外授業） パークゴルフを行っている高齢者からルールを教わり一緒にプレーする。高齢者とのコミュニケーションを通じて介護予防の視点からパークゴルフの作業特性や活用方法について考察する。	高齢者の介護予防として行われている作業について事前に調べておくこと。（90分）	授業時に示すレポート課題を作成すること（90分）
担当教員			
第6回	高齢者や片麻痺を想定した基本動作の実施、評価を演習する（玉）	2年後期で学んだ加齢による心身機能への影響と3年前期で学んだ基本動作の評価について予習しておく。（90分）	高齢の片麻痺患者の基本動作の特徴を復習すること（90分）
担当教員			
第7回	高齢者や片麻痺を想定したADLの実施、評価を演習する	2年後期で学んだ加齢による心身機能への影響と3年前期で学んだ基本動作の評価について予習しておく。（90分）	高齢の片麻痺患者のADLの特徴を復習すること（90分）
担当教員			
第8回	事例検討：高齢期作業療法評価・介入の視点を学ぶ（玉）	作業療法の評価や介入のプロセスを予習してくること（90分）	事例の作業療法評価、介入をまとめる（90分）
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合（％）	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外（授業内容の課題・参加度・出席態度等）	100	レポート課題・授業参加・出席態度にて評価する	
その他	0		
教科書			

高齢期作業療法学(第3版) 松房利憲・新井健五／医学書院

参考文献

シーティング技術のすべて 木之瀬 隆・森田 智之／医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

学外授業は天候により講義日程が変更になる場合あり

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		精神障害作業療法治療学				ナンバリング	3532
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係する科目である。また、その他のディプロマ・ポリシーとも関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」を基礎とし、「精神障害作業療法治療学演習」「精神障害作業療法治療学特論」及び「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目である。							
授業の概要							
作業療法の起源の一つである精神障害に対する作業療法の歴史、及び、発展の背景について学び、諸制度を含めた精神科作業療法実践の枠組みを理解する。また、対象理解の観点から、認知機能障害に対する知識を身につけ、各種評価方法を学び、更には、それらをもとに介入の理論背景を理解する。							
到達目標							
1. 精神科領域の作業療法の流れについて説明できる。 2. 精神科領域の作業療法で使用されている理論・モデル・介入法について述べることができる。 3. 精神科領域の作業療法の歴史的な重要人物と概念を述べることができる。 4. 評価・介入の基盤となる対人関係のスキルを用いることができる。 5. 評価計画の作成や記録のための基礎技術を使うことができる。							
授業の方法							
教科書及び配布資料を用いた講義とグループワーク形式の演習を実施する							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

精神障害領域における作業療法(精神科デイケア、就労支援施設・機関を含む)における勤務経験を活かして、精神障害領域における作業療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート及び課題については、適宜、コメント・フィードバックを行います。確認テストは回収後、解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	精神障害領域の作業療法を实践する上で基盤となる、精神疾患を体験する意味、全人的に人をとらえることの意義、正常と異常のとらえ方について学ぶ。	精神障害と作業療法の「ひとと病い」(P2～23)について目を通す(60分)	配布資料を読み、精神疾患の影響について考え、レポートを作成する(120分)
担当教員			
第2回	精神障害を経験しながら生活すること:精神障害のある方のDVDを視聴し、障害がありながら生活していくことについて理解を深める。	「当事者研究」「アドヒアランス」「コンコーダンス」についてWebや書籍等で調べる(120分)	精神科領域における服薬についてWeb等で調べ、精神疾患を有する人にとっての服薬管理への理解を深める(60分)
担当教員			
第3回	精神医療と精神科作業療法:精神障害者に関する法律の変遷と作業療法(介入法の変遷を含む) 日本の精神科医療の歴史的な背景や流れ(法制度等)を踏まえ、精神科作業療法の展開の歴史を理解する	精神障害と作業療法P28～43、精神機能作業療法学P12～67について目を通す(60分)	法制度及び精神科作業療法の先達と介入方法についてまとめる(120分)
担当教員			
第4回	精神科作業療法の流れ:対象者との出会いから終結までの流れを理解し、基盤である自己の治療的利用と集団療法を学ぶ	精神障害と作業療法P97～178について目を通す(60分)	精神障害に関する記事を集めレポートを作成する(120分)
担当教員			

第5回	作業療法実践の場①:病院とデイケア 精神科作業療法における、実践領域と対象について学ぶ。 更に、多くの作業療法士が勤務している、病院・デイケアでの実践について概要を学ぶ	精神科病院についてかかれて いる書籍を1冊以上読む(90分)	病院及びデイケアにおける作業 療法の概要についてまとめる(特 に、診療報酬や算定の枠組みを 中心に)(90分)
担当教員			
第6回	作業療法実践の場②:訪問と地域で利用できる施設 地域での作業療法実践の形である、訪問での支援(ACT を含む)、福祉施設での実践の概要を学ぶ	生活を支援する精神障害作業 療法P206～213、精神機能作業 療法学P58～62について目を通 す。(90分)	訪問支援、ACT、各就労支援施 設、IPSの概要についてまとめる (90分)
担当教員			
第7回	作業療法介入と枠組み①:認知機能障害と認知機能リハビリ テーション 認知機能障害及び認知機能障害に対する介入方法の概 要を学ぶ	生活を支援する精神障害作業 療法P39～41について目を通し 、興味のある部分について書籍 やWebを利用して学ぶ(90分)	神経認知と社会的認 知、NEAR、SCIT、メタ認知トレ ーニングについてまとめる(90分)
担当教員			
第8回	作業療法介入と枠組み②:認知行動療法、SSTとその周辺 認知行動療法とSSTについて概要を学ぶ	作業療法介入と枠組み②:認知 行動療法、SSTとその周辺 認知行動療法とSSTについて概 要を学ぶ	認知行動療法及びSSTについて 、概要、実施方法をまとめる(90 分)
担当教員			
第9回	作業療法介入と枠組み③:リカバリー、エンパワメン ト、WRAP(元気回復行動プラン) 近年のアプローチで重視されているリカバリー、エンパワメ ントについて学び、WRAPについて体験する	生活を支援する精神障害作業 療法P20～29、51～57、248～ 253、精神機能作業療法学P35 ～41について目を通す(90分)	リカバリー、エンパワメン ト、WRAPの概要について、配布 資料を確認してまとめる(90分)
担当教員			
第10回	作業療法介入と枠組み④:就労支援の現状とストレン グスモデル・IPS(個別職業紹介とサポート) 就労支援の現状とストレングスモデル及び就労支援で用 いられているIPSについて学ぶ(ゲストスピーカー:船本修平 氏)	生活を支援する精神障害作業 療法P180～184、215～235につ いて目を通すこと(60分)	ストレングスモデルについて、概 要とアセスメントについてまとめ る。また、IPSの概要についてま とめる(120分)
担当教員			

第11回	当事者の視点①:当事者活動とピアサポート、リカバリーカレッジ 当事者活動、ピアサポートについて学ぶ。更に、共同創造が重要とされるリカバリーカレッジについて学ぶ(ゲストスピーカー:北海道ピアサポート協会2名)	生活を支援する精神障害作業療法P248～253、第2回講義資料について目を通す(60分)	当事者活動、ピアサポート、リカバリーカレッジの概要をまとめ、レポートを作成する(120分)
担当教員			
第12回	当事者の視点②:当事者研究と自分の当事者性、インテンショナル・ピアサポート 当事者研究、インテンショナル・ピアサポートについて学ぶ。また、自分の当事者性について振り返る	生活を支援する精神障害作業療法P248～253、第2回講義資料について目を通す(60分)	当事者研究、インテンショナル・ピアサポートの概要をまとめ、レポートを作成する(120分)
担当教員			
第13回	精神障害領域の評価①:情報収集、観察、面接、検査 精神科作業療法の評価の基本となる情報収集、観察、面接、検査について学ぶ	精神障害と作業療法P128～176、精神機能作業療法学P79～104について目を通す(90分)	精神科領域の情報収集、観察、面接、検査について、臨床実習でも活用できるようにまとめる(90分)
担当教員			
第14回	精神障害領域の評価②:統合と解釈、介入の計画 精神科作業療法における統合と解釈・介入計画の立案について、事例を通して学ぶ	事前に提示された課題を取り組み、完成させる(90分)	事例における統合と解釈、介入計画の概要と留意点についてまとめる(90分)
担当教員			
第15回	精神障害領域の評価③:観察・面接・記録の実習(プロセスレコードを含む)と確認テスト 観察、面接、プロセスレコードについて、学生間で実際に体験し、臨床実習で活用できるようにする。また、確認テストを行う。	作業療法評価学演習で学んだ、観察、面接、プロセスレコードについて、確認する(60分)	臨床実習で実際に実施できるように、観察、面接、記録、プロセスレコードについてまとめる。また、確認テストの結果を踏まえ、知識の補完を行う。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(授業内での課題・実習を含む)(10%)	

その他	0	
教科書		
精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、生活を支える精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版		
参考文献		
必要に応じて講義で紹介します		
履修条件・留意事項等		
他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。ゲストスピーカーの日程は別途連絡しますので気をつけてください。 新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	1135
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。							
授業の概要							
これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。							
到達目標							
・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。 ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。 ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。グループワークを実施する。 ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。							
ICT活用							
・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。 ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。							
実務経験のある教員の教育内容							

消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート	
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など	
教科書			

人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房

参考文献

授業内で順次紹介する。

履修条件・留意事項等

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加を必須とする。
- ・講義中に私語が多い学生やグループワークに取り組まない学生は、退室となり欠席扱いとなる場合がある。
- ・講義内容は、キャリア入門の振り返りを含む。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリアビジョン				ナンバリング	1134
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金子 翔拓、沖田 勇帆						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「思考・論究・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす」能力を養うための科目である。 社会人として求められる自主性と主体性を身につけるための科目である。							
授業の概要							
アクティブラーニング(書く・話す・発表する等)で、作業療法士に求められる、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的に解決する力を高める。 具体的には、プレゼンテーションの作成、発表、評価などワークを通して、社会に期待される自分について学ぶ。自分のシーズと社会のニーズの差を知ること、自分の成長の歪みを分析し、考え方・行動の指標をつくること、聞く・読む・整理する能力を高め、アウトプットの精度をあげることを意図とする。							
到達目標							
1.授業に集中して取り組み、授業ノートに簡潔にまとめることができる。 2.概念を既有知識や経験と関連づけるWHY思考ができる。 3.課題を、答・な・た・も・だ・志で構想し、論理的に伝達することができる。 4.表現や言動において、客観的に見直したり立場を変えて考えたりするセルフマネジメントができる。 をベースに、 5.聞き手の理解度を意識したプレゼンテーションの作成及び発表ができる。 6.評価手法を用いて多角的に評価できる。 ことを目標とする。							
授業の方法							
前半(第2回～4回)は、パワーポイントと配付印刷物を用いて、講義形式で進める。チェックシートで自己分析をしたり、グループで話し合いをしたり、意見や考えを発表したりする。発表した意見はICT(タブレット端末やカメラ)で提示し、共有する。授業ノートとWHY思考レポートを記入し、提出する。 後半(第5回～8回)は、各グループが制作したプレゼンテーションの発表と評価を行う。評価シートを記入し、提出する。 第8回終了時に、全8回を振り返ったWHY思考レポートを提出する。							
ICT活用							
ZOOMオンラインを取り入れ、国外で勤務する作業療法士の視点を学ぶ。							
実務経験のある教員の教育内容							

沖田勇帆:作業療法士として国外で実践を積み、アクティブラーニングについて幅広い知識を有する。

課題に対するフィードバックの方法

WHY思考レポートは採点し、コメントを入れて返します。プレゼンテーションは評価シートを回収して集計したものを提示し、解説を行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 自身のキャリアビジョンについて、ゴールシートを用いて深く考え理解する	シラバスを読んでおくこと。(90分)	配付プリントを復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	2. プレゼンと評価(基本) ・プレゼンテーションのフレームワーク ・プレゼンテーション作成の手順	前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	WHY思考レポートを提出。グループごとにプレゼンテーションの作成に入る(90分)。
担当教員			
第3回	3. 作業療法士に必要なスキルについて、グループに分かれプレゼンテーションの準備をする	前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	WHY思考レポートを提出。グループごとにプレゼンテーションの作成(90分)。
担当教員			
第4回	4. 作業療法士に必要なスキルについてグループ発表を行う。また他の班の発表について批評する。	前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	WHY思考レポートを提出。グループごとにプレゼンテーションの作成(90分)
担当教員			

第5回	5.作業療法士のキャリアアップについて理解する	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。(90分)。
担当教員			
第6回	6.作業療法士のキャリアアップについて、グループでプレゼンテーションを作成する	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。(90分)。
担当教員			
第7回	7.作業療法士のキャリアアップについて、グループ発表をする。他の班の発表について批評する	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。(90分)
担当教員			
第8回	8. 自身のキャリアアップについて、まとめ報告する。	発表グループはプレゼンテーションを提出する。前回の授業で配付したプリントを復習すること。(90分)	評価シートを提出。WHY思考レポート パターン3「現代社会とキャリアプランⅡで向日葵が伝えたかったこと」を提出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度とWHY思考レポートの内容から総合的に評価する。	
その他	0	なし	
教科書			

なし

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

休まず出席すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		リハビリテーション工学				ナンバリング	2232
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、田中 栄一、梅田 信吾						
授業の位置づけ							
リハビリテーションにおける身体機能および能力の補助的な手段に多様な機器等が開発されており、医療から福祉、介護までその領域は広く、その特性を工学的な視点から実用性に至るまでの視点を身につけるための科目である。作業療法および理学療法を実践するために必要な基本的知識および技能を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」および「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。」と関連している。「運動学Ⅰ」、「運動学Ⅱ」、「運動学実習」、「機能代償学」、「理学療法技術セミナーⅠ」と関連する。							
授業の概要							
リハビリテーションのための工学の基礎を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について学ぶ。特に理学療法士・作業療法士に必要な人体の制御機能および情報処理特性などに関して生体力学・人間工学的観点から、その特性に適合した福祉機器の開発とその利用方法について学習する。							
到達目標							
リハビリテーション工学の概要を理解し、説明できる。 車いすの種類や構造、その適応について理解し説明できる。 自助具、医療・福祉機器等を用いた生活の支援方法について理解し、説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。また、最新のトピックス等の情報も適宜、提供する。 理解度についてまとめのテストを用いて確認する。							
ICT活用							
Google classroom等を用いた資料提供やフィードバック等を実施する予定である。							
実務経験のある教員の教育内容							

全ての教員がリハビリテーション工学に携わる実務経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受けます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	リハ工学総論。リハビリテーション工学の歴史をはじめ福祉機器の開発や医学と工学の連携などリハビリテーション工学の概要を学習する。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第2回	車椅子の種類、構造など身体機能に合わせた車椅子の知識や技術について学習する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第3回	コミュニケーション障害における用具支援について コミュニケーションが困難な方への用具活用について学びます。	コミュニケーションに関連する解剖学生理学について復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第4回	身近なICTを活用 スマホやパソコンのアクセシビリティ機能について学び、余暇や学習支援での活用方法を学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第5回	eスポーツ Eスポーツにおけるアクセシビリティと、リハビリテーション場面での活用方法について学びます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第6回	自助具について考えよう① 身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第7回	自助具について考えよう② 身の回りの困難さを用具を使って解決する方法を生活機能分析の視点から考えます。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第8回	リハビリテーション工学についてまとめとテストを用いて復習し、理解を深める	これまでの授業で学んだことを復習しておくこと(90分)	全体の授業を通して復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(40%)、講義内課題(30%)、出席態度・参加度等(30%)	
その他	0		
教科書			

なし
参考文献
都度紹介する
履修条件・留意事項等
8回中3回の欠席で単位の認定が不可
備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学実習				ナンバリング	2230
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	金 京室、金子 翔拓、白戸 力弥、佐美 靖、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と関係している。							
授業の概要							
運動学を基礎とし、実習において体表解剖、臨床的・運動学的計測を行い、正常な関節構成体の形態および関節運動を理解する。さらに、動作分析を通して四肢、体幹の運動様式について理解を深める。							
到達目標							
・運動器(筋・骨格)系の体表解剖を理解し触診ができる ・姿勢・基本動作の分析ができる ・上肢、手指の運動の動作解析ができる							
授業の方法							
各授業はじめに配布物とパワーポイントにて実習の説明と講義を行う。その後、少人数グループに分かれて課題の観察記録や計測を行う。グループごとでディスカッションとまとめを行い、レポート作成し提出する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

全ての教員が本科目に関わる実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での質疑応答やディスカッションおよび課題レポートや次回授業時などでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	運動器(筋・骨格)と関節運動① ・頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診について(金子)	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖の知識の整理(90分)	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員			
第2回	運動器(筋・骨格)と関節運動② ・体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診について(金子)	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖の知識の整理(90分)	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員			
第3回	身体運動と重心について ・基本動作における身体運動・重心の特徴について	身体運動と重心の関係についての知識の整理(90分)	身体運動と重心の関係についての確認(90分)
担当教員	金 京室		
第4回	姿勢分析① 姿勢の観察と分析について	姿勢の観察と分析の知識の整理(90分)	姿勢の観察と分析のまとめ(90分)
担当教員	金 京室		

第5回	姿勢解析② 姿勢制御と重心動揺について	姿勢制御の知識の整理(90分)	姿勢制御のまとめ(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	動作分析① ・起き上がり、立ち座りの動作分析	起き上がり、立ち座りの知識の整理(90分)	起き上がり、立ち座りの動作解析の確認とまとめ(90分)
担当教員	金 京室		
第7回	動作分析 ・正常歩行解析について	正常歩行の知識の整理	正常歩行解析の確認とまとめ
担当教員	金 京室		
第8回	動的バランス能力と健脚度・ロコモ度評価について(侘美)	動的バランス能力とロコモの整理(90分)	動的バランス能力とロコモのまとめ(90分)
担当教員	侘美 靖		
第9回	上肢の運動学実習① ・手指・手関節・前腕・肘関節の運動学実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第10回	上肢の運動学実習② ・上肢の運動・動作解析実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第11回	上肢の運動学実習③ ・ 肩関節・肩甲上腕リズムについて	肩関節・肩甲上腕リズムの知識の整理 (90分)	肩関節・肩甲上腕リズムの確認とまとめ (90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	上肢の応用的動作 ・ 物品操作に関わる運動学と動作分析	上肢の応用的動作の知識の整理 (90分)	物品操作に関わる運動学と動作分析の確認とまとめ (90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題レポート、理解度等により総合的に判断する	
その他	0	なし	
教科書			
指定しない。随時紹介する。			
参考文献			
指定しない。随時紹介する。			
履修条件・留意事項等			

必要資料は随時配布する。
実習科目のため原則、欠席を認めない。白衣またはTシャツ、短パンを着用すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション障害学				ナンバリング	2320
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金 京室、未定						
授業の位置づけ							
基礎医学と臨床医学の知識を統合して、作業療法や理学療法の専門領域へつなげる科目であり、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす能力を養うための科目である。 作業療法学科および理学療法学科のディプロマポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」「理学療法を行いための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」を達成するための科目である。							
授業の概要							
本科目では基礎医学と臨床医学の知識を論理的基盤とし、理学療法および作業療法における評価や治療について柔軟に考える。ある特定の障害を正常と比較しながら運動学的、病理学的、解剖学および生理学的に考察することで障害の実態を把握する。また、必要なリスク管理、検査項目の選択および治療プログラムの立案についても根拠をもって考察し、基礎医学と臨床医学の繋がりを体感する。展開する分野は神経障害、内部障害、動器障害とし、2年前期までに学んだ専門基礎科目と専門科目の理解を深め、臨床実習に向けて応用力を養う。							
到達目標							
1.神経系の構造と機能を再確認し、多様な症状・障害に対する対処法を論理的に説明できる。 2.筋・骨格系の構造と機能を再確認し、運動器疾患とそれらに起因する障害像を把握し、理学療法や作業療法に応用できる臨床的な知識を習得する。 3.中枢神経障害の神経制御機構について説明できる。							
授業の方法							
小グループによる演習や講義を織り交ぜ、問題解決能力の向上をはかる。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

金京室:病院などの身体機能障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、リハビリテーション障害学の授業を行う。
田邊芳恵:病院やクリニックなどの身体障害領域において理学療法士として5年以上勤務した経験を活かし、リハビリテーション障害学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

単元別に適宜課題を出し、提出された内容を精査したうえで、重要な内容について講義内でフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中枢神経系の解剖生理学 脳・脊髄の構造(機能局在・伝導路など)と機能を臨床的視点から説明できる。	解剖学・生理学の教科書を見直して関連領域の知識をまとめておくこと。(90分)	大脳皮質の機能、上行路、下行路について復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	中枢神経障害でみられる症状① 錐体路障害で出現する様々な症状を臨床神経学的に説明できる。	解剖学・生理学の教科書を見直して関連領域の知識をまとめておくこと。(90分)	前回の授業内容もふまえ、中枢神経の構造と機能について復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	神経疾患で出現する症状の捉え方 特に上位ニューロン障害と下位ニューロン障害、感覚障害について臨床的な視点から説明できる。	講義ノートを見直し、脊髄内の上行路、下行路について予習すること。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第4回	中枢神経障害でみられる症状② 球麻痺症状、高次脳機能障害、筋緊張異常などの症状を説明できる。(金子)	特に脳神経の機能と脊髄反射のメカニズムについて予習すること。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

第5回	上肢関節の解剖学と運動学:肩関節、肘関節、手関節の構造と関節運動の特徴を説明できる。(田邊)	上肢の関節について解剖学や運動学の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	脊柱の解剖学と運動学:頸椎、胸椎、腰椎の構造と関節運動の特徴を説明できる。	脊柱の代表的な疾患について整形外科の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	下肢関節の解剖学と運動学①:股関節の構造と関節運動の特徴を説明できる。	股関節の代表的な疾患について整形外科の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	下肢関節の解剖学と運動学②:膝関節、足関節の構造と関節運動の特徴を説明できる。	膝関節、足関節の代表的な疾患について整形外科の教科書を見直しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	単元ごとに簡単な授業内課題(80%)、授業参加度(20%)	
その他	0		
教科書			

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

随時紹介する。

履修条件・留意事項等

3 回欠席すると単位を取得できないので注意すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		救急医学				ナンバリング	2318
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	俵 敏弘、高橋 信行						
授業の位置づけ							
医療の現場において必要とされる救急処置について講義を行う。作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけることを目的とする科目である。作業療法学科のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と関係がある科目である。さらに、その他すべてのディプロマポリシーと関係している。							
授業の概要							
応急処置を適切に行うことは医療関係者のみならず、一般の人間にも必要とされる。講義では主な外傷と疾病について応急処置の方法およびその必要性を説明する。また、応急処置を必要とする病態についても解説する。専門科目の急性期の身体障害作業療法分野の基礎となる。							
到達目標							
(1) 医療施設以外の場所で正しい応急処置を行うことができる。 (2) 外傷に対する応急処置の必要性を説明することができる。 (3) 生命の危険を生じる危険性の高い疾患について説明することができる。 (4) 正しい一次救命処置を実施することができる。							
授業の方法							
スライドを中心に講義を行う。							
ICT活用							
グーグルフォームを利用した試験を行う予定である。							
実務経験のある教員の教育内容							

現役の救急専門医等が講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

試験結果についてフィードバックを行う予定である。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	外傷(1)皮膚の損傷 応急処置、病院での処置、皮膚の構造、生体の防御反応、皮膚表面の細菌、皮膚の再生	皮膚の損傷について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第2回	外傷(2)骨折・脱臼・捻挫 応急処置、病院での処置、骨の構造、骨折の合併症、関節の構造、四肢の骨折・捻挫・脱臼	骨折・脱臼・捻挫について、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	高橋 信行		
第3回	外傷(3)重要臓器の外傷 応急処置、病院での処置、頭部外傷、頭蓋内血腫、頸髄損傷、胸部外傷	臓器の仕組みについて、予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第4回	外傷(4)出血 応急処置、病院での処置、大量出血とショック、輸血、血液と感染症、止血機能障害	出血が身体に及ぼす影響を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		

第5回	疾病(1)体温異常・熱傷・感電 応急処置、病院での治療、発熱と解熱、熱傷と凍傷、体温調節、感電	体温調節における生理学的機序について予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第6回	疾病(2)中毒 応急処置、病院での治療、ガス中毒、食中毒、アナフィラキシー	中毒にはどのようなものがあるかを予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第7回	(疾病3)心筋梗塞・脳梗塞 血管病変の救急。	心筋梗塞・脳梗塞について復習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第8回	定期試験外試験とまとめ	試験範囲について復習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	試験の成績	
その他	0		
教科書			

指定しない。

参考文献

指定しない。

履修条件・留意事項等

学生証を用いた出席認証を行うため、忘れず持参すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		言語障害治療学				ナンバリング	2336
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金浜 悦子						
授業の位置づけ							
臨床現場で接する言語聴覚及び嚥下障害全般にわたる専門的な知識を得ることにより、患者や地域で暮らす利用者とのコミュニケーション能力を高めることができ、より良いリハビリテーションの提供ができる。又、当事者をとりまくあらたな環境整備を考えるための応用力を身につけることを目的とする。ディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」「作業療法を実践するために必要な基本的技術を身につけている。」と関連する。							
授業の概要							
失語症を中心に、成人及び小児のコミュニケーション全般について、又高齢者を中心とする摂食嚥下障害について、それぞれの機能の仕組みや障害の特徴について解説し、評価や対応方法を習得する。							
到達目標							
・言語（失語症を中心に）や聴覚障害者とのコミュニケーション技術、支援方法を習得する。 ・医療、福祉、教育の現場等においての言語聴覚士の領域の専門的な知識について理解を深めることで、チームとしてより良い連携をし幅広い対応ができるセラピストになる。							
授業の方法							
教科書、配布資料、パワーポイントを用いての講義形式で行う。失語症者との接し方については実践体験を行う予定。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

言語聴覚士として、医療機関、訪問看護ステーション、介護保険施設に勤務し、現在はNPO法人で失語症に特化した支援活動に取り組む。20年の臨床経験を活かし、言語障害全般のとらえ方や支援方法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各講義のポイントを教科書や配布資料に則って復習チェックしておく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【オリエンテーション】言語聴覚士の成り立ちや仕事内容などを紹介する。又言葉の持つ役割やしぐみ、主な言語障害の種類について学ぶ。	教科書巻頭カラーページP2～16を読む(30分)	配布資料を復習し、確認事項を整理する。(30分)
担当教員			
第2回	【失語症①定義・症状】失語症とは、発話のみに限らず理解の障害であることを学ぶ。又、主な失語のタイプの症状や特徴を知り、失語症を正しく理解する。	第1章 失語症P24～47を読む(60分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(40分)
担当教員			
第3回	【失語症②評価・接し方】様々なタイプがある失語症を評価する方法や観察点について、又接し方のコツについてを学ぶ。	第1章 失語症P48～58を読む(30分)	教科書・配布資料を読み、小テストに備える。(90分)
担当教員			
第4回	【失語症③会話実践体験・小テスト】失語症者との会話場面を想定し、接し方や会話のコツについて実践を通して学ぶ。まとめとして失語症についての小テストを行う。	配布資料の接し方のコツを読み、次回実践学習に備える。(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			

第5回	【その他のコミュニケーション障害】失語症と間違われやすい運動性構音障害について、また、聴覚障害について知識を深める。	第Ⅰ部第2章運動性構音障害p60～72、第Ⅱ部第2章聴覚障害p138～141まで読む(30分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(30分)
担当教員			
第6回	【摂食嚥下障害①】高齢者の死亡原因の上位とされる摂食嚥下障害について嚥下機能や障害の特徴について学ぶ。	第Ⅰ部第4章摂食嚥下障害p86～94を読む(30分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(30分)
担当教員			
第7回	【摂食嚥下障害②】嚥下障害の評価時の観察点や簡易検査の方法、訓練内容や対応を理解し、多職種がチームとなり関わる重要性を知る。次回のテストに向けてポイントを整理する。	第Ⅰ部第4部摂食嚥下障害p90～94を読む(20分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理し、小テストに備える。(90分)
担当教員			
第8回	【小児の言語障害・小テスト】近年、小児の言葉の発達や学習支援のニーズが増加傾向にある。小児の主な言語障害について学ぶ。摂食嚥下障害・その他について小テストを行う。	第Ⅱ部第6章学習障害p192～202を読む(20分)	全講義の配布資料に目を通し、復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施なし。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	講義の出席姿勢と小テストの成績。	
その他	10	各種届(欠席・遅刻)の提出必須。	
教科書			

図解やさしくわかる言語聴覚障害 小嶋知幸 編著 ナツメ社

参考文献

- ・脳卒中後のコミュニケーション障害 竹内愛子／河内十郎 編著 協同医書
- ・絵でわかる言語障害 毛束真知子 著 学研
- ・失語症の理解とケア 遠藤尚志 著 雲母書房
- ・神経心理学入門 山鳥 重 著 医学書院
- ・口から食べる嚥下障害Q&A 藤島一郎 著 清水一男絵 中央法規 他

履修条件・留意事項等

教科書、配布資料の持参。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		小児科学				ナンバリング	2308
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	石黒 信久						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。 小児科学は、小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上に立って理解し、また小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、理学療法士や作業療法士となるために、必ず修めておかなければならない授業である。							
授業の概要							
理学療法士・作業療法士に必要な小児科学の基礎を学習する。特に、小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価と種々の疾患の基礎について学習する。							
到達目標							
1. 小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価ができる。 2. 種々の疾患に関する知識を取得、理解し、それらの説明ができる。							
授業の方法							
対面講義を予定しているが、学習効果を考慮しWebによる講義も検討する							
ICT活用							
web講義を行う場合には、ICT(Information and Communication Technology)機能を活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

小児科医として30年以上の経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて講義のなかで説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	新型コロナウイルス感染症:SARS-CoV-2, 疾患の概要, 検査所見, 治療, 感染対策, 学生生活を送る上での注意事項について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第2回	新生児・未熟児疾患: 新生児特有の問題, 新生児・周産期異常症, 中枢神経障害と疾患などの症状・診断・治療などについて学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第3回	先天異常と遺伝病: 染色体異常, 先天奇形, 先天代謝異常症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第4回	神経・筋・骨系疾患: 中枢神経疾患, てんかん, 発達遅滞を伴う疾患, 脊髄疾患, 末梢神経疾患, 筋疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		

第5回	循環器疾患, 呼吸器疾患および感染症: 種々の先天性心疾患および呼吸器疾患, 感染症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第6回	消化器疾患, 内分泌・代謝疾患および血液疾患: 種々の消化器疾患, 内分泌・代謝疾患および血液疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。 腎・泌尿器疾患, 眼科・耳鼻科的疾患: 種々の腎・泌尿器疾患, 眼科・耳鼻科的疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第7回	免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患: 種々の免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
第8回	まとめのための筆記試験を実施する。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分間程度)。	試験の内容について復習しておく(90分間程度)。
担当教員	石黒 信久		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	80% 筆記試験を実施する。 20% 授業への参加度や授業態度から判断する。	
その他	0	なし	
教科書			

医学書院
《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》
小児科学 第5版

参考文献

特になし

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		脳神経内科学				ナンバリング	2306
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松谷 学、林 貴士						
授業の位置づけ							
理学療法/作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」 「作業療法を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」 に特に関係する科目である。これまでに学習した「解剖学」「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」「内科学」等の知識をベースとし、リハビリテーションの学習において必ず修得しておくべき臨床医学のうち、脳神経内科学を学ぶ科目である。							
授業の概要							
脳神経内科疾患は、障害が中枢神経系、末梢神経系、筋肉に及び、小児から高齢者までのリハビリテーション治療の対象として重要である。臨床の現場では神経学的な検査を行い、その結果に基づき適切な治療計画と実施がなされなければならない。講義では神経系の解剖と機能を理解し、その上で各種の神経、筋疾患の臨床像と病態に基づく治療が理解できるように計画されている。							
到達目標							
・神経学的症候を神経系の解剖、機能と関連付けて述べることができる。 ・神経学的検査および補助検査を理解し、その臨床的意義を述べることができる。 ・主な脳神経内科疾患について、その特徴や臨床経過、治療法等について述べることができる。							
授業の方法							
・教科書とパワーポイントを併用して、講義形式で進める。 ・脳神経内科疾患について、症候や病態の考え方、必要な検査法について、演習でディスカッションを行い、理解を深める。 ・まとめの講義と質疑応答、および確認テストを2回行い、理解の定着を図る。							
ICT活用							
未定							
実務経験のある教員の教育内容							

脳神経内科診療と脳神経内科疾患のリハビリテーションに長年携わってきた。日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医の資格を有する。医科大学神経内科領域の非常勤講師、臨床教授として、学生指導に関わってきた幅広い経験を活かし、脳神経内科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質疑応答の時間を設け、確認テスト終了後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	序論： 神経系の基本構造、情報伝達機能、脳神経内科疾患の大きな全体像を学習する。	教科書の第1章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第2回	中枢神経系の構造と機能： 中枢神経系を構成する各部位の構造と機能、求心性/遠心性伝導路を学習する。	教科書の第2章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第3回	末梢神経系の構造と機能： 末梢神経の構造と機能を、脳神経、脊髄神経、神経叢、自律神経を含めて学習する。	教科書の第3章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第4回	症候学1(運動・感覚系)： 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。神経学的診察法について学ぶ。	教科書の第4章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		

第5回	症候学2(高次脳機能): 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。 とくに意識と高次脳機能障害について焦点を当てる。	教科書の第5章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第6回	神経学的診断と補助検査法: 近年のリハビリテーション臨床で重要な画像検査や各職協働に必要な生理学的検査の基本を学習する。	教科書の第6章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第7回	確認テストとその解説(1回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第6章にあり)を各自予習する。(90分一)	講義内容を教科書で復習する。 確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第8回	脳血管障害: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第9回	感染症・自己免疫疾患(脱髄疾患含む): 炎症を基盤とした疾患群を学習する。	教科書の第9章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第10回	末梢神経障害・筋疾患: 末梢神経系、筋、神経筋接合部の疾患について学ぶ。	教科書の第10章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		

第11回	脳腫瘍・頭部外傷： 脳神経外科で扱う手術が必要になることが多い疾患について学習する。	教科書の第11章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第12回	水頭症・代謝性疾患(遺伝形式含む)・脊髄疾患： 水頭症、代謝性疾患(先天代謝疾患、代謝性脳症)、脊髄疾患について学習する。	教科書の第12章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第13回	神経変性疾患1(運動障害を中心に)： 代表的な神経系の疾患群である運動障害を中心とする神経変性疾患を学ぶ。	教科書の第13章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第14回	神経変性疾患2(認知症を中心に)、頭痛、てんかん： 認知症を主体とする神経変性疾患、ならびに発作性の疾患を学習する。	教科書の第14章、第15章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第15回	確認テストとその解説(2回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第15章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト2回 ・出席回数が3分の2に達しない場合は不合格	

その他	0	なし
教科書		
永井知代子/ビジュアル臨床神経学/医歯薬出版株式会社		
参考文献		
・川平和美 編集/標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学/i医学書院 ・他 随時紹介する。		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床薬理学				ナンバリング	2346
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	續 佳代						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」また、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・機能)」ことと特に関係のある科目である。解剖学、生理学を習得していることが前提で、投薬中の患者様の作業療法、理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。							
授業の概要							
医療において薬物治療の位置づけは非常に重要である。作業療法、理学療法は入院治療の一環として薬物療法と、精神療法とともに行われるものである。ほとんど全ての患者は薬物治療で症状をコントロールしながら作業療法、理学療法を受けていることをいつも考えていなければならない。講義では臨床で頻繁に出会う疾患に使用する薬剤の種類、薬効、薬効の持続、副作用について概説するので、適正な作業療法、理学療法に生かせる知識を習得する。							
到達目標							
・剤形の種類と投与方法、体内における吸収、代謝、排泄までを概説できる。 ・各疾患治療薬の薬効と副作用を概説できる。 ・薬と薬、薬と食品やサプリメントの相互作用について概説できる。							
授業の方法							
パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。
 復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	- 作業療法士、理学療法士が薬理学を学ぶ意義について理解する。 - 薬に関する基礎知識(薬の名称、薬の剤形、投与経路と吸収、体内動態、薬物作用部位など)を理解する。	自分のお薬手帳に記載されている薬品名、用法・容量など、まず薬に興味を持つこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	- 薬物依存症 - 薬物の依存、耐性、逆耐性現象、離脱症状について理解する。 - 依存性薬物の種類と心身に及ぼす作用の特徴について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	- 末梢神経の疾患と薬 - 自律神経系における情報伝達を理解する。 - 副交感神経系作用薬について理解する。 - 交感神経系作用薬について理解する。 - 痙縮治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第4回	- 中枢神経系の疾患と薬 - 神経伝達物質と受容体の関係を理解する。 - 中枢神経系の疾患(統合失調症、パーキンソン病、アルツハイマー病)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第5回	中枢神経系の疾患と治療薬 ・中枢神経系疾患(不眠症、睡眠障害、うつ病、双極性障害、神経症性障害、注意欠如・多動性障害、ナルコレプシー)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	循環器系の疾患と薬 ・狭心症、心筋梗塞の治療薬について理解する。 ・抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬について理解する。 ・高血圧治療薬、利尿薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	抗炎症薬、鎮痛薬 ・炎症、痛みと抗炎症薬、鎮痛薬について理解する。 ・抗炎症薬(ステロイド剤、NSAIDs)について理解する。 ・鎮痛薬(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、神経障害性鎮痛薬)について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第1回目から第7回目までのまとめの復習試験と解説を行う。	第1回目から第7回目までに配布した問題を学習しなおし、復習試験の準備をしておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記による復習試験で評価する。	
その他	0		
教科書			

薬がみえる vol.1 (第2版)メディックメディア

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		老年医学				ナンバリング	2316
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	瀧山 晃弘、續 佳代、佐々木 幸子、辻 幸美						
授業の位置づけ							
作業療法を行うために必要な、老年医学に関連する基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。 「高齢期作業療法治療学」「高齢期作業療法治療学演習」「高齢期作業療法治療学特論」の基礎となる。							
授業の概要							
超高齢社会を迎え老年学の重要性は弥が上にも増大し、高齢者医療においては診断や治療を行うのみではなく、社会生活にまで配慮した全人的医療の実践が望まれる。そのために、老年医学に関する基本的な知識を習得し、医療、リハビリテーション、看護など専門職による理解を深める。							
到達目標							
1. 老化と老年期を包括的に理解し、説明できる。 2. 高齢者の個別の疾患、障害への理解を深め、応用できる。 3. 高齢者の全人間的復権、リハビリテーション看護などの重要性について理解し、説明できる。							
授業の方法							
板書と教科書を活用しながら講義形式ですすめる。パワーポイントと配布印刷物も用いる。Google Classroomを用いた理解度確認テストを時間内に行う(全4回程度)。必要に応じてオンライン授業を実施する。 フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う。							
ICT活用							
Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

各教員は医師、看護師、薬剤師、理学療法士等の資格に基づく臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	加齢と老化(瀧山晃弘) ・老年学とは ・老化と加齢の定義、老化の機序 ・老化による生理機能の低下 ・老年病と老年症候群	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	高齢者に特徴的な症状と疾患1(瀧山晃弘) ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患2(瀧山晃弘) ・骨・運動器疾患 ・精神・神経疾患 ・耳鼻咽喉疾患 ・眼疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学・精神医学・臨床心理学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患3(瀧山晃弘) ・内分泌疾患 ・血液・免疫疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・皮膚・口腔疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	高齢者に特徴的な精神疾患(認知症とうつ)(續佳代) ・加齢によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違いについて理解する。 ・認知症の種類とその特徴について理解する。 ・老年期のうつ病の特徴と治療について理解する。	教科書p188-204を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	續 佳代		
第6回	高齢者のリハビリテーション1(佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・サルコペニア・フレイル ・転倒・骨折 ・変形性関節症	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第7回	高齢者のリハビリテーション2(佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・脳血管疾患 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第8回	老年看護学における理論と実際(辻幸美) 内容:老年看護学の概要や老年看護学の定義、役割 行動目標:医療チームの一員である看護師が基盤としている考え方が理解できる。	教科書 32 高齢者の医療、看護、介護・福祉、保健 B を熟読しておくこと。(90分)	看護師と連携することで得られる患者にとってのメリットを考える。(90分)
担当教員	辻 幸美		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	一部の講義で小テストを行う。詳細は授業中に伝える。	
その他	0	なし	
教科書			

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(第5版) 編集:大内 尉義 医学書院

参考文献

必要に応じて紹介する。

履修条件・留意事項等

積極的に学修すること。

備考欄

特記事項なし。

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		チーム医療概論				ナンバリング	2384
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、續 佳代、松本 信子、鹿内 あずさ、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。 （思考・判断・表現） 「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論I」「作業療法概論II」と関連する。							
授業の概要							
病と老いの障害の連続化の中で、障害者、高齢者を支えるために医療と福祉と保健、施設と在宅がどう結び合っていくべきか、新しいパラダイムが求められる。予防から治療、リハビリ、社会復帰に至るまで、各専門分野のスタッフとともに職能を存分に発揮するだけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが必要である。そのためには、本学における生活習慣病および栄養管理のあり方としての栄養学はもとより、保健予防医学、スポーツ障害に対する運動療法学、日常の諸活動を対象とする作業療法学、コミュニケーション、介護、看護学など全人的ケアに欠かせない分野の理解を深める。							
到達目標							
・医療は誰のものか医療が目指すものは何かを理解できる。 ・医療システムとしてのチーム医療の目指すものは何かについて考えることができる。 ・チーム医療の方法論、課題等理解を深めることができる。							
授業の方法							
講義形式で展開する。パワーポイントと配布印刷物も用いる。 グループワークとグループ発表を行う。							
ICT活用							
Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤(理学療法士)、金谷(作業療法士)、續(薬剤師)、鹿内(看護師)、松本(管理栄養士)は、これまでの臨床・研究の経験を基に授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業中に適宜、質問を受けます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	チーム医療総論 チーム医療が推進される背景や概念などを学び、多職種チーム連携の重要性を理解し学習する。 チーム医療における理学療法士の役割 理学療法の専門性と、チームにおける役割を学ぶ。	チーム医療に関する最新の情報を調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	チーム医療における作業療法士の役割(金谷) ・“作業”とは？ ・作業療法士は何をする職種なのか？ ・作業療法士がチーム医療で大切にしていること	作業療法士の専門性について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	チーム医療における薬剤師の役割 チーム医療において、薬剤師がどのような役割を果たしているのか、理解する。	薬剤師の専門性について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	續 佳代		
第4回	保健医療チームにおける看護職の職種と役割 看護職の国家資格には、保健師、助産師、看護師、准看護師がある。対象者の健康レベルやライフステージに合わせた看護職の役割について学ぶ。	看護師の専門性について考えておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		

第5回	保健医療チームにおける看護師の活動、及び、他職種との連携(鹿内) 様々な活動の場における看護師の活動内容と他職種との連携の方法、及び、その重要性について学ぶ。	前回の講義資料を読んてくること(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	鹿内 あずさ		
第6回	チーム医療における管理栄養士の役割 栄養士・管理栄養士の専門性とチーム医療における役割を学ぶ。	管理栄養士の専門性について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	松本 信子		
第7回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	チーム医療のコミュニケーション実習 チーム医療はコミュニケーションや多職種への理解不足が主な要因である。グループワークを通じ、課題の解決方法を体得する。	チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分) チーム医療(特に多職種連携)について調べておくこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(80%) 受講態度・意欲等(20%)	
その他	0	なし	
教科書			

適宜、資料を配布します。

参考文献

「チーム医療」とは何か / 細田満和子 著 / 日本看護協会出版会

履修条件・留意事項等

無断欠席は厳禁。休んだ場合は欠席届を提出すること。

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	2290
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。」「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている。」「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個性を尊重できる。」などとも関係する。							
授業の概要							
在宅療養者と家族の生活を支える社会保障サービスおよび介護保険制度の仕組みを理解し、地域包括ケアシステムにおける関係職種・関係機関の役割について理解する。							
到達目標							
・地域連携の基本的な連携について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。 ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式で進める。 ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。							
ICT活用							
・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。
- ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域包括ケアシステム論の概要について 1) 地域包括ケアの概念 2) 地域連携の理論と方法 3) 我が国の社会保障制度の変遷 4) 我が国の医療の背景と特徴、ケアサイクルの概念と理論	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	水本 淳		
第2回	地域連携の方法論と地域包括ケアシステムにおける地域連携と多職種連携について 1) インテグレートケア 2) 連携の方法 3) 地域包括ケアシステムが求められる背景 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第3回	地域医療と介護のシステム化 1) 様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第4回	地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割(水本) 1) 退院支援から地域連携におけるリハ職や看護職の役割 2) 退院支援のプロセス 小テスト1	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。(90分)
担当教員	水本 淳		

第5回	小テスト1の解説 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割 1) 薬剤師、ソーシャルワーカーなど他の役割 2) 地域連携の展望と課題 3) 認知症ケアが必要とする地域連携 4) 小規模多機能型居宅介護が進める地域連携 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第6回	生活をつなぐ地域連携、医療・介護・福祉の地域ネットワークづくりの取り組み ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第7回	地域包括ケアにおける地域連携の実践 ゲストスピーカー:未定	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
第8回	地域包括ケアシステムの展望について 小テスト2 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む。 (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと、感想についてレポートにまとめる。 (90分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	出席を含む講義・演習への参加態度(30%) 課題レポート(30%)	
その他	40	小テスト:2回(40%)	
教科書			

地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社

参考文献

講義内で紹介する

履修条件・留意事項等

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		統計と社会調査法				ナンバリング	2288
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小田 史郎						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーのうち、全学科に共通する問題解決能力の修得、すなわち(1)問題を発見し、必要な情報を収集する能力、(2)得られた情報に基づき、適正に評価をする能力、(3)これをまとめて他者に伝える能力を身につける能力を修得する科目である。							
授業の概要							
統計に関する基礎知識の上に立って、自らの課題解決のための調査実施の原理と方法を理解し、疫学的調査の基本技術を身につける。特に社会集団を観察するとはどのようなことなのか、母集団や標本の設定、質問票の作成や集計、統計処理など、社会調査全般について実践的に学ぶ。							
到達目標							
①学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、調査計画を立てることができるようになる。 ②学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、質問紙を作成することができるようになる。 ③学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、データを分析し、まとめることができるようになる。							
授業の方法							
パワーポイント、配付印刷物を活用しながら、講義形式で進める(全15回)。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対しては、内容に関する質問に回答します。
最終レポートについては第15回の講義時に講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンスにおいて講義の流れや評価の方法について確認する。また社会調査とは何か、社会調査の目的やその分類について学ぶ。	シラバスを読み、社会調査の定義について調べておく(30分)	自分が調査したいテーマについて関連する資料を探しておく(150分)。
担当教員			
第2回	社会調査の流れについて、フローチャートに基づいて学ぶ。全体像をつかんだ後、最初に行うべき基礎資料の収集法について学ぶ。	社会調査の流れについて示した文献を探し、読んでおく(60分)。	講義で習った方法を用いて、調査テーマに関連する文献検索と収集を行う(120分)。
担当教員			
第3回	文献の読み方について学ぶ。調査テーマに関連する学術論文を題材に、どこまで明らかにされており、何が課題として残っているか、またどのような方法が用いられているかを読み解く方法について学ぶ。	収集した文献を読み、必要な部分をまとめておく(90分)。	講義で習ったことを参考に、収集した論文で明らかにされていること、課題として残されていることをまとめる(90分)。
担当教員			
第4回	考察やまとめを意識した学術論文の収集方法、整理方法について学ぶ。調査テーマに関する論文だけでなく、関係性を説明できる学術論文の集め方について学ぶ。さらに社会調査における倫理的な配慮についても学ぶ。	収集した文献を読み、研究背景として使える部分をまとめておく(90分)。	先行研究を参考に、研究背景と研究目的をレポートにまとめる(90分)。
担当教員			

第5回	調査バイアスや交絡因子について学ぶ。バイアスが入ったデータは精度が低くなることを理解し、調査の精度を高めるためにこれらをできるだけ少なくするための方法を学ぶ。	調査時に起きるバイアスや交絡の考え方について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成について整理する。また文献検討により、「方法」の部分に記載する事項について調べる(150分)。
担当教員			
第6回	妥当性と信頼性について学び、調査質問紙を作成する際にどのような点に注意するかについて学ぶ。また報告書の「方法」の部分の記載方法について学ぶ。	調査における妥当性や信頼性について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成や内容について精査する。また講義で習った記載方法に基づいて、自分の調査の「方法」の部分を書き下す(150分)。
担当教員			
第7回	質問の文章化、選択肢の作り方のルール、質問紙のレイアウトについても学ぶ。	調査質問紙作成のルールについて事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査内容を具体的に文章化する。また選択肢も作成する(150分)。
担当教員			
第8回	アンケート実施後のデータの編集方法、パソコンへの入力方法、集計方法について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの集計方法について復習する(30分)。	講義内容をもとに、自分の調査結果を入力するデータベースを作成する(150分)
担当教員			
第9回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。分割表の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙を精査する。また自分のデータをどのように解析するかについてのレポート作成を開始する(120分)。
担当教員			
第10回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。差の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	架空のデータを入れて集計・解析する。その結果に基づき、調査質問紙の修正する(120分)。
担当教員			

第11回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 相関係数の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	調査質問紙、自分のデータをど のように解析するかについての レポートを作成する(120分)。
担当教員			
第12回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 重複測定一分散分析法について学ぶ。さらに母集団と標 本について理解し、母集団から標本を抽出する無作為抽 出法について学ぶ。	全数調査と標本調査について 調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを作成する(150分)。
担当教員			
第13回	標本誤差の考え方と社会調査で必要とされる標本数の求 め方について学ぶ。	標本誤差や必要なサンプル数 について事前に調べておく(30 分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを完成させる(150分)。
担当教員			
第14回	有効回収率とこれを高める必要性について学ぶ。さらに有 効回収率を高める工夫について学ぶ。最終レポートの提出 を行う。	有効回収率に関して事前に調 べておく。また最終レポートを完 成し、提出できるように印刷して おく(120分)。	講義の内容をまとめる(60分)。
担当教員			
第15回	最終レポートへの講評により学びを深める。研究デザインと エビデンスレベルについて学び、症例対照研究、コホート 研究、ランダム化比較試験の特徴について理解する。	症例対照研究、コホート研究、ラ ンダム化比較試験について事 前に調べておく(30分)。	第15回の講義内容をまとめると ともに、講義全体で習ったことを 整理する(150分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	毎回の小レポート、あるいは課題(50点)、研究背景、研究目的、質問紙、解析計画に関するレ ポート(50点)の総合点で評価する。	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
「統計の基礎」で使用した「4stepエクセル統計」をデータ解析の説明時に用います。 第8-12回の授業時には持参ください。		
履修条件・留意事項等		
この講義は、「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法演習Ⅰ				ナンバリング	4601
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子、白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)」こととも関係する。「作業療法研究法」を基礎とし、「作業療法研究法演習Ⅱ」につながる科目である。							
授業の概要							
作業療法研究法演習Ⅰ・Ⅱの目的は、既習得した作業療法に関する研究テーマを設定し、各教員の指導のもとに、研究の目的、方法及び対象、データの収集と分析、引用、及び、参考文献の収集、実験・調査結果の考察にまで至る、一連の論文作成過程を通して基本的な研究能力を培うものである。このうち作業療法研究法演習Ⅰでは、研究計画の作成までを行う。							
到達目標							
1) 指導教員の指導に基づき、研究テーマを決定することができる。 2) 研究テーマに沿った適切なキーワードを用い、文献検索を行うことができる。 3) 入手した文献の内容を説明できる。 4) 指導教員の指導に基づき、研究計画を立案できる。 5) 研究計画をパワーポイントを用いて発表できる。 6) 作業療法研究計画発表会では真摯な態度で積極的に質疑応答に参加できる。							
授業の方法							
基本は指導担当教員によるゼミ形式であるが、研究計画書の発表等は学年全体に学生がプレゼンテーションを行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミ単位で教員を含めて研究計画の討論を行う。また、研究計画発表会の際にクラスの学生や他の教員の質問に答え、討論を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	指導教員の決定 各担当教員がそれぞれの主要な研究内容についてアナウンスし、希望を取った後、指導教員を決定する	各教員の研究内容、指導方法を確認し、自分の興味のあるテーマについて検討する(20分)	教員の助言にもとづいて、研究疑問についてまとめる(25分)
担当教員			
第2回	研究テーマの決定① 学生の興味と各担当教員の研究内容に応じて、各学生ごとに研究疑問を整理する	自分自身の研究疑問を書き出し、先行研究等を調べ、検討する(20分)	教員の助言にもとづいて、研究テーマ決定に向けた先行研究の調査を行う(25分)
担当教員			
第3回	研究テーマの決定② 卒業研究として各自の研究テーマを決定する	教員の指導にもとづいて、自分の研究疑問を解決する方法について、文献等で検討する(25分)	教員の助言にもとづいて、決定した研究テーマに関する先行研究について探索する(20分)
担当教員			
第4回	研究計画書の作成① 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			

第5回	研究計画書の作成② 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			
第6回	研究計画書の作成③ 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			
第7回	研究計画書の作成④ 研究方法(結果の解析方法を含む)について、検討し、決定する	担当教員の指導にもとづいて、研究方法・解析方法をまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、研究計画の方法について、先行研究を確認し、修正する(25分)
担当教員			
第8回	研究計画書の作成⑤ 研究方法(結果の解析方法を含む)について、検討し、決定する	担当教員の指導にもとづいて、研究方法・解析方法をまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、研究計画の方法について、先行研究を確認し、修正する(25分)
担当教員			
第9回	研究計画書の作成⑥ 指定されたフォームに従った計画書発表用抄録を担当教員の指導の下で作成する。	担当教員指導にもとづいて、所定のフォームに従った抄録を作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、先行研究を確認し、抄録を修正する(25分)
担当教員			
第10回	研究計画書の作成⑦ 指定されたフォームに従った計画書発表用抄録を担当教員の指導の下で作成する。	担当教員指導にもとづいて、所定のフォームに従った抄録を作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、先行研究を確認し、抄録を修正する(25分)
担当教員			

第11回	研究計画書の作成⑧ 研究計画の発表にむけてプレゼンテーション用のパワーポイントを担当教員の指導の下で作成する。	担当教員に指導を受けるために、パワーポイントを作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、パワーポイントを修正し、プレゼンテーションの練習をする(25分)
担当教員			
第12回	研究計画の発表① 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第13回	研究計画の発表② 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第14回	研究計画の発表③ 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第15回	研究計画の発表④ 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画発表会及びゼミにおける遂行状況	

その他	0	特になし
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
研究計画発表会を欠席した場合は出席回数を満たしても不合格となる場合がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法演習Ⅱ				ナンバリング	4602
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	白戸 力弥、大川 浩子、金子 翔拓、佐美 靖、瀧山 晃弘、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。(思考・判断・表現)」と特に関係する科目である。また、「作業療法を実践するために必要な文章力・対人コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)」とも関係する科目である。「作業療法研究法」「作業療法研究法演習Ⅰ」を基礎とし、「作業療法総合セミナーⅠ・Ⅱ」につながる科目である。							
授業の概要							
作業療法研究の目的は、既に習得した作業療法に関する研究テーマを設定し、各教員の指導のもとに、研究の目的、方法及び対象、データの収集と分析、引用、及び、参考文献の収集、実験・調査結果の考察にまで至る、一連の論文作成過程を通して基本的な研究能力を培うものである。作業療法研究Ⅰでの研究計画にもとづき研究成果のまとめまでを行う。							
到達目標							
1) 研究計画に基づき、適切な方法(倫理的配慮を含む)を用いて、研究を遂行し結果を分析・考察できる。 2) 執筆規定に従って研究抄録(A4用紙2枚)を書くことができる。 3) 取り組んだ研究の限界を説明できる。 4) 研究の成果を発表することができる。 5) 作業療法研究発表では真摯な態度で積極的に質疑応答に参加できる。							
授業の方法							
指導担当教員によるゼミ形式で進める。卒業研究発表会は全体で行い、成果を確認する。							
ICT活用							
最後のポスター発表のためにパワーポイントまたはGoogleスライドを用いて学生自らがポスターを作成する。 遠隔授業が中心になるときは、オンラインで発表会を行う。 評価には、観点を決めて教員のみでなく学生の相互評価得点も含め、リアルタイムで結果を確認できるようにする。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミではゼミ教員及び関連教員がフィードバックする。発表会では複数の教員が質疑を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	研究の実施① ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	研究の実施② ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	研究の実施③ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	研究の実施④ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	研究の実施⑤ ・研究計画に沿って、実際のデータ収集・実験などを行う。	担当教員の指導にもとづいて、データ収集を行うための準備、調整を行う(90分)	担当教員の助言にもとづいて、データ収集の整理、修正を行う(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	結果の解析・考察① ・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	結果の解析・考察② ・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	結果の解析・考察③ ・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第9回	結果の解析・考察④ ・得られたデータについて結果を解析し、先行研究との比較・検討を行い考察する。	担当教員の指導を受けるために、データの整理・分析を実施する(90分)	担当教員の指導にもとづいて、データの分析を進める(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第10回	研究抄録の作成① ・執筆規定にあわせて研究抄録を作成する。	担当教員の指導を受けるために、規程に合わせて抄録を作成する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、抄録を修正する(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第11回	研究抄録の作成② ・執筆規定にあわせて研究抄録を作成する。	担当教員の指導を受けるために、 規程に合わせて抄録を作成する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、 抄録を修正する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	発表の準備① ・研究成果について、発表用ポスターの作成を行う。	担当教員の指導を受けるために、 発表用ポスター等を準備する(90分)	担当教員の助言にもとづいて、 発表用ポスター等を修正する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	発表の準備② ・発表の練習をする。質疑応答用の想定される質問と回答を考えておく。	卒業研究発表会でのプレゼンテーションを練習する(90分)	卒業研究発表会での質疑応答にむけて、プレゼンテーション方法の修正、質疑応答に対する自己学習を行う(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	卒業研究発表会① ・研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を行う。	会場を設営し、発表用ポスター等をわかりやすく展示する(90分)	質疑応答から、自分の研究に関する限界、不足についてまとめる(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	卒業研究発表 ・研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を行う。他の学生の研究成果を真摯に聴き、質問し理解する。	配布された抄録集を読み込み、 関心のあるテーマについて質疑を準備する(90分)	行った質疑応答をもとに、自分たちが携わった以外の研究手法についても理解を深め、国家試験に対応できる思考力を身に着ける(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表会及びゼミにおける遂行状況を総合的に判断する	

その他	0	
教科書		
各指導教員が研究内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
参考文献		
各指導教員が研究内容に合わせて必要な文献を紹介する。		
履修条件・留意事項等		
自ら積極的に研究に取り組むことが望まれる。また、最終の発表会を欠席した場合は出席回数を満たしても不合格となる場合がある。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法管理学					
科目名		作業療法管理運営・法規				ナンバリング	3460
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。また、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)」とも関係する科目である。さらに、作業療法概論を基礎として、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにつながる科目である。							
授業の概要							
作業療法士の身分法や医療法、介護保険法、障害者総合支援法などの関連法規について学ぶ。また、作業療法士の職業倫理指針に基づいて、自己研鑽や業務遂行上の最善努力、安全性への配慮、職能間の協調といった焦点に対する実務的な業務のあり方について学ぶ。すなわち、土地建物から什器・調度に至るハードウェアに関する必要知識を身につけ、さらに人員や物品の管理・組織運営、リスク管理の方法、生涯学習の方法といったソフトウェアについて学び、チームアプローチの土台となる組織運営のあり方について考察する。さらに、診療報酬制度・介護報酬制度を学ぶ際には、医療経済学についても視野に納める。							
到達目標							
1. 作業療法士に求められるマネジメントや職業倫理の大切さについて自分の考えを述べることができる。 2. 作業療法部門に必要なスペース、職種、人員、設備、備品、消耗品について説明できる。 3. 作業療法部門における感染症対策、リスク管理について説明できる。 4. 部門内、または他部門との連絡調整に必要な記録や報告、連携について説明できる。 5. 作業療法部門の管理・運営について人的、物理的、経済的に考察できる。 6. 作業療法士を取り巻く組織や職能団体の必要性について説明することができる。 7. 診療報酬・介護報酬を含めた社会保障制度の現状について説明ができる。							
授業の方法							
パワーポイント、教科書、配布資料による講義形式で実施し、グループワーク等で理解を深める。作業療法室の設計および収支計画については、グループワーク形式で実施し、プレゼン資料を作成する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

発表についてその場でフィードバックする。課題レポートについては適宜コメント、またはフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	本科目のオリエンテーション、作業療法における管理運営・法規の外観 本科目の構成と履修方法を確認し、到達目標を理解する。また、今後求められる作業療法士のマネジメントについて理解を深める。	教科書第1章を読むこと。評価実習の経験を踏まえ、本科目の内容と関連することを確認する。(90分)	マネジメントに関する資料を検索し、本日の内容と比較する。(90分)
担当教員			
第2回	職業倫理① 作業療法士の職業倫理 作業療法士の職業倫理・研究倫理を理解する。また、対象者等も含めた倫理的な基礎知識を理解し、倫理的問題について学ぶ。	作業療法概論で学んだ職業倫理を確認し、教科書第10章を読むこと。(90分)	作業療法士に起こりうる倫理的問題についてWebで検索する。(90分)
担当教員			
第3回	職業倫理② 倫理に関する問題を考える グループごとに作業療法士に起こりうる倫理的な問題についてディスカッションし、様々な立場や見方を理解し、職業倫理を体感する。	医療・福祉における倫理的な問題について、Web等で検索する。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			
第4回	情報のマネジメント 作業療法概論で学んだ記録の重要性を再確認する。さらに、多職種連携のために必要となるコミュニケーションや情報の取り扱いについて学ぶ。	作業療法概論で学んだ記録について確認し、教科書第3章を読む。(90分)	情報管理と取り扱いについてまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	作業療法と医療サービス サービスとは何か、医療におけるサービスについて学び、 作業療法におけるサービスのマネジメントを理解する。	医療サービスと他のサービスの 違いを考え、教科書第4章を読 む。(90分)	作業療法を提供する上で必要と なるマネジメントについてまとめ る。(90分)
担当教員			
第6回	医療安全のマネジメント 医療におけるアクシデントやインシデントについて学び、 医療事故を減らすため仕組みを理解する。また、標準予防 策を含めた感染対策を理解する。	評価実習の施設で行われてい た、医療事故・感染対策を列挙 し、教科書第5章を読む。(90分)	臨床実習で起こりうるインシデ ントの例と予防策を考えまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	作業療法業務のマネジメント①:人・物・経済性のマネジ メント 新人教育を含めた人材育成や環境整備について理解す る。また、作業療法業務の経済性を理解する。	評価実習施設で行われていた 環境整備の例を列挙し、教科書 第6章を読む。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを 作成する。(90分)
担当教員			
第8回	作業療法業務のマネジメント②:情報・時間・ストレスのマネ ジメント 作業療法業務における情報や時間、ストレスに対するマネ ジメントを学ぶ。	教科書第7章を読み、評価実習 で自分が使用していたストレスマ ネジメントをあげる。(90分)	臨床実習における時間管理とス トレスマネジメントについてまとめ 、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱで用いる ことができるよう準備する。(90分)
担当教員			
第9回	作業療法業務のマネジメント③:実践からの学びと確認テ スト 作業療法実践のための業務管理、人材育成や連携につ いて学ぶ。また、地域や行政機関、災害時の役割を理解 する。また、確認テストを実施し、1～8回の講義内容の理 解を確認する。	地域で活動する作業療法士の 例をWebで確認した上で、教科 書第8章を読む。(90分)	確認テストで誤った点を、教科 書等を利用して確認する。(90 分)
担当教員			
第10回	作業療法を取り巻く諸制度:わが国の社会保障制度の現 状について学ぶ。特に、近年の変化の大きい法改正につ いて確認する。	作業療法概論等で学習してきた 法制度について確認する。(90 分)	教科書11章に記載されている諸 制度についてWebで調べ、改正 点を追記してまとめる。(90分)
担当教員			

第11回	作業療法室の設計① 所属施設，地域性，部門の位置づけ，施設認可区分，土地建物，デザイン，設備・備品・消耗品について学ぶ。	評価実習で経験した作業療法の枠組みについてまとめること。(90分)	グループ発表に向けたパワーポイントを作成すること。(90分)
担当教員			
第12回	作業療法室の設計② パワーポイントを使用し、グループで発表を行う。	グループ発表に関する準備を行う。(90分)	リハビリテーション室(作業療法室)に必要な物品をピックアップし、管理についてまとめる(90分)。
担当教員			
第13回	作業療法士の役割と職域 作業療法士の役割や職域、法律について理解する。また、作業療法士が所属する職能団体について知り、作業療法士の生涯学習の必要性について学ぶ。	作業療法概論で学んだ理学療法士及び作業療法士方を確認した上で、教科書第9章を読む。(90分)	日本作業療法士協会、北海道作業療法士会のHPにアクセスし、職能団体の活動について理解する(90分)
担当教員			
第14回	作業療法士のキャリア開発①作業療法士の期待される領域 作業療法士が期待される領域について学ぶ。特に、近年増加している作業療法士の起業や地域での連携について考える。	起業している作業療法士の活動例についてWeb等で検索する。(90分)	次の確認テストに向けて9～14回で学んだ内容をまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	作業療法士のキャリア開発②作業療法士のキャリアを開発するために確認テスト 作業療法士の資格認定制度や学会研修会を知る。また、ワークライフバランスをふまえたキャリア開発を考える。最後に確認テストを実施し、9～15回の講義内容の理解を確認する。	免許取得後の自分のキャリアについて考える。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題20%、確認テスト50%、課題レポート30%	

その他	0	
教科書		
作業療法管理学入門/大庭潤平/医歯薬出版		
参考文献		
リハビリテーション管理学 第2版/斉藤秀之・他編/医学書院		
履修条件・留意事項等		
新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学実習 I				ナンバリング	3446
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシー「知識・技能」の「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるために評価学を学ぶ。「作業療法評価学実習Ⅱ」や「評価実習・総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
作業療法評価学および作業療法評価学演習を踏まえ、実際に臨床場面で行われている基本的な検査・測定に関する評価技法について、測定意義を学び評価手技を実習で身に付ける。							
到達目標							
・触診、形態測定の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。 ・関節可動域検査の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。 ・片麻痺機能検査の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。 ・感覚検査の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。 ・模擬患者に対し、安全性に配慮しながら正確な検査測定ができる。							
授業の方法							
配布資料・教科書・動画等を用いた講義および検査実技の実演を行った後、実際に学生同士で実習を行う。							
ICT活用							
Google formを活用して確認テストを実施し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。
 白戸力弥:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。
 金谷匡紘:作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。
 金京室:作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各実技試験終了後に課題に関するフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 体表解剖および触診 キーポイントと触診・形態測定(金子)	筋の起始停止, 支配神経, 作用について予習しておくこと。(90分)	触診技術の獲得に向け, 再度学生同士で触診の実技を復習すること(90分)
担当教員			
第2回	関節可動域検査 ① 関節可動域検査の目的・意義・結果の捉え方について学ぶ。頭部・頸部・体幹の関節可動域の計測方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。(金子)	関節可動域検査の目的・意義について教科書の該当ページを確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け, 再度学生同士で実技練習を行うこと(90分)
担当教員			
第3回	関節可動域検査 ② 肩関節・肘関節・手関節の関節可動域の測定方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。(金子)	肩甲帯・肩関節・肘関節・手関節の関節可動域検査について、教科書の該当ページを事前に確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け, 再度学生同士で実技練習を行うこと。(90分)
担当教員			
第4回	関節可動域検査 ③ 手指の関節可動域の測定方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。(白戸)	手指の関節可動域検査について、教科書の該当するページを確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け, 再度学生同士で実技練習を行うこと。(90分)
担当教員			

第5回	関節可動域検査 ④ 下肢・足部の関節可動域の測定方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。 (金子)	下肢・足部の関節可動域検査について教科書の該当ページを確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け、再度学生同士で実技練習を行うこと。 (90分)
担当教員			
第6回	片麻痺の評価①Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グレード法を学ぶ 脳血管障害の種類、上位運動ニューロン障害の機序、特徴を学ぶ。(金谷)	教科書p208を事前に認しておくこと。また、上位運動ニューロン障害についても調べておくこと(90分)	上位ニューロン障害における様々な症状と、脳血管障害の種類や特徴について復習すること。(90分)
担当教員			
第7回	片麻痺の評価②Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グレード法を学ぶ 片麻痺の回復過程を学び、連合反応・共同運動・分離運動の特徴を理解する。(金谷)	片麻痺の回復段階について予習すること。(90分)	「連合反応」、「共同運動」、「分離運動」についてまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	片麻痺の評価③Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グレード法を学ぶ Brunnstrom stageによる片麻痺の回復段階を理解する。(金)	教科書P288～295のBrunnstrom stageについて内容を確認しておくこと。(90分)	Brunnstromの評価手技について復習すること(90分)
担当教員			
第9回	片麻痺の評価④Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グレード法を学ぶ 上田式12段階片麻痺回復グレード法の意味を理解し、評価方法を学習する。(金)	教科書P342～347の12段階片麻痺機能検査の手技を事前に読み予習すること。(90分)	12段階片麻痺機能検査の手技を復習し、必ず練習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	感覚検査を学ぶ。S-Wテストによる感覚検査、2点識別覚、重量弁別覚・位置覚の検査方法を学ぶ。検査機器の使い方を習得する。(白戸)	教科書のP114～129を事前に読んでおくこと(90分)	各種感覚検査機器を用いて、実技を復習すること。(90分)
担当教員			

第11回	ROM評価場面設定でのOSCE、まとめ実技指導 模擬患者を対象に、接遇や安全面に配慮しながら正確に関節可動域を測定できるか実技試験を実施し習得度を確認し、修正が必要なところを指導する。 (金子)	模擬患者に配慮しながら、ROM評価を正確に実施できるよう、繰り返し練習を行うこと。 (90分)	指摘・指導されたところを改善できるよう再度練習を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	片麻痺評価場面設定でのOSCE、まとめ実技指導 模擬患者を対象に、接遇や安全面に配慮しながら正確に上田式片麻痺検査を実施できるか実技試験にて習得度を確認し、修正が必要なところを指導する。 (金子)	患者に配慮しながら、上田式の片麻痺評価を正確に実施し判定できるよう、繰り返し練習を行うこと。(90分)	指摘・指導されたところを改善できるよう再度練習を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回のOSCE形式の実技試験により判定する。	
その他	0	特になし	
教科書			
ROM測定法 / 齋藤 慶一郎 / メジカルビュー社			
参考文献			
履修条件・留意事項等			

特別な理由がない限り欠席は認めない。
ケーシーまたはジャージなど、動きやすい服装のこと。実技に相応しくない服装の場合、受講を認めないことがある。
OSCE形式の実技試験に合格しない場合、単位認定しない。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		運動器障害作業療法学				ナンバリング	3503
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。3年次の科目である「身体障害作業療法治療学実習」、「身体障害作業療法治療学特論」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
上肢を中心とした運動器疾患の病態と障害像の理解を深め、各疾患に応じた作業療法の評価および治療学について学ぶ。							
到達目標							
①作業療法で扱う代表的な運動器疾患の病態を理解し、それらに対する作業療法の目標、治療計画、治療法について述べる事ができる。 ②運動器疾患における早期運動療法の意義、その実際について説明ができる。 ③運動器疾患により生じる生活障害とそれらに対する代償的手段について述べる事ができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。授業の理解度確認のための小テストを実施し、フィードバックすることで、知識の定着を促す。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員は本科目に関する作業療法士実務経験があり、運動器障害作業療法について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認のための小テストを3回実施し、採点后にフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	コースガイド 骨折の作業療法① 総論:骨折に対する治療法の変遷 各論:手関節、手根骨、手指・母指の骨折に対する作業療法について学ぶ	教科書の232～313頁を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	骨折の作業療法② 肩関節、肘関節、前腕の骨折に対する作業療法について学ぶ	教科書の68～102、143～191頁を事前に読んでおくこと。(90分)	小テストを実施するので、よく復習をしておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	手指屈筋腱・伸筋腱損傷の作業療法 腱修復の治癒過程、腱縫合法、腱断裂修復術後のZone別の訓練法を中心に学ぶ	手指屈筋腱損傷および伸筋腱損傷の発赤機序、治療法について予習をしておくこと。(90分)	小テストを実施するので、よく復習をしておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	末梢神経障害の作業療法 ・手根管症候群、肘部管症候群を中心とした絞扼性神経障害に対する評価、各種訓練法について学ぶ ・腕神経叢損傷に対する治療法および機能再建術後の作業療法について学ぶ	各種末梢神経障害の麻痺の発生機序と生じる変形を予習しておくこと、また腕神経叢損傷の病態について予習をしておくこと。(90分)	小テストを実施するので、よく復習をしておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	慢性疼痛の作業療法 複合性局所疼痛症候群(CRPS)に対する作業療法について学ぶ	CRPSの病態、治療法について予習しておくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	関節リウマチの作業療法 関節リウマチ(RA)の変形に対するスプリント療法、関節保護法を中心に学ぶ	関節リウマチの病態について予習しておくこと。教科書の224-231頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	熱傷の作業療法 熱傷の重症度、外科的治療、拘縮予防のためのスプリント療法、肥厚性瘢痕に対する管理法を中心に学ぶ	熱傷の病態、重症度分類、治療法について予習しておくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	試験とまとめ	試験の準備をすること(180分)	
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外試験(70%)および3回の小テスト(30%)を実施する。	
その他	0		
教科書			

上肢運動器疾患の画像リハビリテーション／白戸力弥／ヒューマン・プレス

参考文献

臨床ハンドセラピー／坪田貞子／文光堂
手外科診療ハンドブック改訂第2版／斎藤英彦／南江堂

履修条件・留意事項等

解剖学、生理学、運動学、整形外科科学を履修・予習しておくこと。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		機能活動代償学Ⅱ				ナンバリング	3501
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法学を探究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている(知識・技能)」こととも関係する。機能活動代償学Ⅰおよび身体障害作業療法治療学実習から繋がる科目である。							
授業の概要							
切断に対する各種義肢の構造、分類、適用とチェックアウトのポイントについて学ぶ。また、上肢・体幹・下肢装具の構造、分類、各疾患に対する適用法について理解を深める。							
到達目標							
・義手および義足の構造、分類、適用を説明できる。 ・義手および義足のチェックアウトのポイントを上げることができる。 ・上肢・体幹・下肢装具の構造、分類、各疾患に対する適用法を理解できる							
授業の方法							
教科書、パワーポイントや配布印刷物(ハンドアウト)を用いた授業を行う。理解度確認のため、小テストを実施する。							
ICT活用							
グーグルフォームを用いた小テストを行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

身体障害領域の勤務経験があり、義肢・装具について幅広い知識を有している。この経験を活かして本科目の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施し、これらの解答に説明を加えて、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	切断総論・義手について 上肢切断の分類と義手の種類と構造を学ぶ	教科書4頁から53頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	義手のチェックポイントについて 前腕および上腕義手のチェックアウトと装着訓練について学ぶ	教科書66頁から82頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	筋電義手について 筋電義手の構造と症例を通して最新の筋電義手を学ぶ	教科書54頁から65頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	義足について 股義足・大腿義足・膝義足・下腿義足・足部義足の構造とリハビリテーションについて学ぶ	教科書88頁から192頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	上肢装具について 各種上肢装具の構造、役割、適応について学ぶ	教科書198頁から259頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	体幹装具について 各種体幹装具の構造、役割、適応について学ぶ	教科書278頁から303頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	下肢装具 各種下肢装具の構造、役割、適応について学ぶ	教科書306頁から392頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	まとめと試験 1～7回の試験のまとめを行う	授業配布資料および教科書を復習する(90分)	配布資料および教科書を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(50%)＋まとめ試験(50%)	
その他	0		
教科書			

リハビリテーション義肢装具学／清水順市・青木主税編／メジカルビュー

参考文献

義肢装具のチェックポイント第9版／日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監修／医学書院

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高次脳機能障害作業療法治療学				ナンバリング	3514
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシー「作業療法学を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」を達成するための科目であり、高次脳機能障害作業療法治療学演習の基礎となる。							
授業の概要							
高次脳機能障害に関する代表的な障害、症状を取り上げ、その基礎知識、評価法について学習する。高次脳機能障害のある障害児者を理解するため、各障害の定義、責任病巣等を学習する。また実際に使用される評価法を学習する。							
到達目標							
①高次脳機能障害の定義および神経心理学的検査の進め方を説明できる。 ②代表的な高次脳機能障害の症状等に応じて、適切な評価を説明できる。 ③代表的な高次脳機能障害の症状等に応じて、適切な治療を説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布資料を用いて講義を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

脳神経外科病院や外来クリニックにて作業療法士の勤務経験があり、高次脳機能障害およびそれに対するリハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を生かして、高次脳機能障害学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認のテストを行い、解答の解説を行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	高次脳機能障害とは 高次脳機能障害の概要とそれを理解するための脳解剖等の基礎知識について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第2回	視空間認知障害 半側空間無視、構成障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第3回	注意障害 注意障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第4回	失語・失書・失読 失語や失書、失読についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			

第5回	失行・行為・行動の障害 失行や行為の障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第6回	失認 失認についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第7回	記憶障害・認知症 記憶障害と認知症についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第8回	全般的知能・理解度確認テストとまとめ 全般的知能についての概略とその評価法について学習する これまでに学習した内容についてまとめのテストを行い、理解度について確認を行う。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(70%)、授業出席態度(30%)	
その他	0		
教科書			

高次脳機能障害学 第3版／石合純夫 著／医歯薬出版

参考文献

必要に応じて都度紹介する

履修条件・留意事項等

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高齢期作業療法治療学				ナンバリング	3522
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	玉 珍						
授業の位置づけ							
作業療法を実践するために必要な基本的知識を習得するための科目であり(知識・技能)、「高齢期作業療法治療学演習」「高齢期作業療法治療学特論」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
加齢に伴う身体・心理精神機能の特性と主な疾患・症候を学習し、高齢者の障害特性を理解する。 また老化に伴う生活場面への影響やリスク管理について学ぶ。介護保険下での作業療法について学ぶ。 認知症の臨床症状や生活場面での障害、認知機能の評価について学ぶ。							
到達目標							
・加齢に伴う身体的機能・心理精神機能を理解し生活障害を理解できる ・介護老人保健施設での作業療法について理解できる。 ・認知症患者の疾患による症状の違いや中核症状・周辺症状について説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントの資料配布・教科書を使用した講義およびグループワークや演習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当の玉はリハビリテーション病院にて作業療法士として勤務し、様々な疾患の高齢者に作業療法を提供していた経験を生かして、講義内では実際に症例紹介などを用いて、加齢による様々な機能低下、リスク管理などをわかりやすく伝達する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の理解を確認する小テストを行い、テスト実施後にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	授業概要の説明 我が国の高齢者の現状、高齢期作業療法の目的を学ぶ	教科書P9～16、P33～38を確認しておくこと (90分)	授業内容・配布資料を復習すること (90分)
担当教員			
第2回	老化による身体機能面の変化と、高齢者の各ADL・IADLへの影響について理解する	教科書P39～50、P81～87を確認しておくこと (90分)	老化による変化とADL・IADLへの影響を説明できるように復習すること (90分)
担当教員			
第3回	老化による精神機能面・知的面の変化、ライフサイクルの変化からみた生活課題について学ぶ	教科書P17～28を確認しておくこと (90分)	老化による精神機能の変化及び高齢者特有の生活課題を復習すること (90分)
担当教員			
第4回	高齢者が要介護状態になる原因とリスク管理について学ぶ (廃用症候群、整形疾患、転倒など)	教科書P51～63を確認しておくこと (90分)	廃用症候群・高齢者のリスク管理について復習すること (90分)
担当教員			

第5回	高齢期作業療法の病期・実施場所の違いについて医療現場・介護老人保健施設・グループホーム等	教科書P95～116を確認しておくこと（90分）	高齢期作業療法が病期や場所の違いについて確認・復習しておくこと（90分）
担当教員			
第6回	認知症①：認知症の概要、原因疾患、中核症状とBPSDについて	教科書P64～73を確認しておくこと（90分）	認知症の中核症状、周辺症状を復習しておくこと（90分）
担当教員			
第7回	認知症②：評価スケール HDS－R、MMSE、CDR等について、評価の説明と同意・評価手順を学習する	教科書P64～73を事前に確認しておくこと（90分）	評価スケールの種類・目的・検査方法を復習すること（90分）
担当教員			
第8回	認知症③：認知症サポートについて支援活動を知り、理解を深める。認知症の方との関わり方を学ぶ。 認知症サポーター講座：恵庭市地域包括	認知症の原因疾患や各症状の特徴を再度確認しておくこと（90分）	認知症の方との関わり方、認知症サポーターについて復習しておくこと（90分）
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合（%）	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト・レポート・授業参加・態度にて評価	
その他	0		
教科書			

高齢期作業療法学(第3版) 松房利憲・新井健五／医学書院

参考文献

認知症をもつ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― 第2版 宮口英樹／メジカルビュー社

履修条件・留意事項等

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		作業療法総合セミナー I				ナンバリング	4581
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子、金子 翔拓、白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
既習の基礎医学、臨床医学、作業療法専門領域の知識を統合し、卒業後の臨床活動の技能を向上させるための「総まとめ」であり、作業療法を実践するために必要な基礎的知識を身につけるための科目である。そのため、全てのディプロマ・ポリシーと関係する科目である。							
授業の概要							
最終学年におけるこれまでの基礎作業療法学、作業療法評価学および作業療法治療学の知識・技法を復習し、卒業時の作業療法学科の学生として必要な知識、技法を修得できるよう統合的に学習する。加えて国家試験合格に向けた総合学習としている。							
到達目標							
1.総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの経験をふまえ、実際の作業療法について説明できる。 2.すべての領域での知識と技術を総合し、作業療法士の臨床活動を具体的に説明できる。 3.これまでの講義内容で得られた知識を再確認し、模擬試験に生かすことができる。							
授業の方法							
・配布する資料を使い講義し、国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。 ・講義方式の座学とグループによる演習を交える。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

適宜講義の重点内容について課題を出し、講義でフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	精神障害の作業療法 (1) 気分障害・依存症・てんかんの作業療法について理解し、説明できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	内部障害の評価およびアプローチ方法について理解し説明できる	内部障害作業療法について調べておくこと。(30分)	内部障害における具体的に患者支援について復習すること。(15分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	発達障害の作業療法 発達障害領域(脳性麻痺・先天性障害・自閉症スペクトラムなど)への具体的な対応について解説できる。	様々な発達障害領域の疾患について調べておくこと。(30分)	さまざまな発達障害に対する具体的な作業療法評価・治療について復習すること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	MTDLPと地域包括 MTDLPの背景と構造について理解し説明できる。地域包括に関連する制度について理解し説明できる。	MTDLPの構造と地域包括ケアシステムについて予習すること。(30分)	MTDLPと地域包括、介護保険制度について復習すること。関係のある国家試験過去問題を解くこと。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		

第5回	精神障害の作業療法 (2) 統合失調症に対する作業療法について理解し、説明できる。また、心理検査に関し理解し、説明できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第6回	中枢神経疾患を含め、作業療法評価における総論について理解し説明できる。	中枢神経疾患の各種の評価について予習すること。(30分)	症状と脳の機能局在との関連について、国家試験過去問題を解きながら確認すること。(15分)
担当教員			
第7回	運動器の作業療法 (1) 整形外科領域の障害への具体的な対応を解説できる。	整形外科疾患全般にわたり、その症状や予後について調べること。(30分)	各種の検査手技を復習し、国家試験過去問題で確認すること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	高齢期作業療法(日常生活活動・地域作業療法領域も含む) 高齢者への具体的な対応について解説できる。第1回確認テスト。	高齢期における様々な障害について調べること。(30分)	作業療法における具体的な患者支援について復習すること。(15分)
担当教員			
第9回	精神障害の作業療法 (3) 神経症圏・パーソナリティ障害の作業療法について理解し、説明できる。関連する地域での作業療法(支援)について解説できる。	精神科領域の各疾患について調べておくこと。(30分)	具体的な評価・治療手技について、国家試験過去問題を解いて確認すること。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第10回	運動器の作業療法 (2) 作業療法に深くかかわるハンドセラピーについて解説できる。	上肢の筋群について、特に起始・停止を予習すること。(30分)	手の外科的対応と後療法について国家試験過去問題を確認すること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		

第11回	義肢装具学 主に義手や装具、自助具について深く学び、症例への具体的な対応について解説できる。	離断・切断、四肢欠損などで発生する障害について調べておくこと。(30分)	具体的な作業療法について、国家試験過去問題を解きながらまとめること。(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	中枢神経障害の作業療法 (3) 日常生活活動への具体的な対応について論じることができる。	具体的なADLに関連するキーワードを調べておくこと。(30分)	各種評価法について国家試験過去問題を調べて確認すること。(15分)
担当教員	金 京室		
第13回	評価学 運動器系、内部疾患系への具体的な対応について解説できる。	呼吸循環器疾患、代謝性疾患について予習すること。(30分)	作業療法における具体的な評価法について国家試験問題などをもとに復習すること。(15分)
担当教員			
第14回	中枢神経系の理解～脳血管障害 中枢神経系について解剖学や生理学的な観点から理解し、脳血管障害と関連付けて説明できる。	中枢神経系の構造と機能について予習すること。(30分)	症候学的内容について復習すること。関係のある国家試験過去問題を解くこと。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	基礎作業学 作業療法の基礎理論を総復習し、具体的・実践的な作業療法への応用について解説できる。第2回確認テスト。	作業療法における様々な理論について予習すること。(30分)	各種理論の作業療法への応用について国家試験問題を通じてまとめること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回の確認テストの成績80%、授業の取り組み態度(小テストなど)20%	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
なし		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		作業療法総合セミナーⅡ				ナンバリング	4582
配当年次	4年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、佐美 靖、瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「思考・判断・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。」能力を養うための科目である。作業療法総合セミナーⅠと連続し、国家試験に合格する実力をつける。							
授業の概要							
作業療法士に必要な基礎医学、臨床医学を学習し、作業療法の専門科目との統合を学ぶ							
到達目標							
1. 作業療法における基礎医学知識のまとめの学習ができる。 2. 生理学、運動学、基礎医学(内科、整形外科、循環器、呼吸器疾患)を再学習する。 3. 基礎医学を学習することで作業療法の専門科目との統合学習ができる。 4. 最終学年として国家試験に向けて復習および知識の統合を行うことができる。							
授業の方法							
講義とミニテストを実施し、解説を行う。授業ごとにグループワークを実施し、不明な点を明確にする。							
ICT活用							
Google formより教員が作成した確認テストを実施し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

全ての教員が実務経験を有しており、各専門領域の教員が授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト、模擬試験ごとに解説を提示し、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	生理学分野1(金子) ・循環器の構造と機能について理解していることを確認する。 ・各内分泌器官から分泌されるホルモン名と、その機能を理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第2回	生理学分野2(金子) ・呼吸器について構造と機能を理解していることを確認する。 ・消化器の構造と機能について理解していることを確認する。 ・消化酵素の分泌部位とその機能について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第3回	生理学分野3(金子) ・血液の機能について理解していることを確認する。 ・血球の種類と機能について理解していることを確認する。 ・免疫系の機能について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第4回	生理学分野4(金子) ・泌尿器の構造と機能について理解していることを確認する。 ・代謝について理解していることを確認する。	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			

第5回	生理学分野5(金子) ・末梢神経の構造と機能について理解していることを確認する. ・自律神経の走行と機能について理解していることを確認する. ・中枢神経の走行と機能について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第6回	解剖学分野1(金子) ・中枢神経の構造について、画像情報を読み取れることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第7回	解剖学分野2(金子) ・上肢の骨の名称と細部の構造について理解していることを確認する. ・上肢の筋肉について、起始・停止、神経支配、機能を理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第8回	解剖学分野3(金子) ・下肢の骨の名称と細部の構造について理解していることを確認する. ・下肢の筋肉について、起始・停止、神経支配、機能を理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第9回	運動学分野1(金子) ・動作解析の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第10回	運動学分野2(金子) ・関節および筋肉に関する検査法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			

第11回	運動学分野3(金子) ・関節および筋肉に関する検査法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第12回	生理学分野6(侘美) ・末梢神経の構造と機能について理解していることを確認する. ・自律神経の走行と機能について理解していることを確認する. ・中枢神経の走行と機能について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第13回	検査学分野1(瀧山) ・神経学的検査方法の手技と臨床的意義について理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第14回	検査学分野2(瀧山) ・画像診断を正しく行えることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
第15回	精神神経学分野(瀧山) ・精神疾患の症状について正しく理解していることを確認する.	基礎医学と作業療法の専門科目をよく復習しておくこと 20分	国家試験に向けた知識の統合を行うこと 25分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回行う小テストおよび模擬試験の総得点で評価する. 確認テストも実施する	

その他	0	なし
教科書		
指定しない		
参考文献		
クエスチョン・バンク 作業療法士国家試験問題解説 2023: 共通問題、専門問題 メディックメディア		
履修条件・留意事項等		
必要に応じて資料を配布する. 積極的にグループワークを活用し学ぶこと. 出席すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		身体障害作業療法治療学特論 I（運動器）				ナンバリング	3510
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金子 翔拓						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「思考・判断・表現」の「根拠に基づく作業療法(EBOT)の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。」能力を達成するための科目である。解剖学、解剖学実習、運動学、作業療法評価学・治療学を基に実施していく。							
授業の概要							
臨床的な立場から運動器疾患・障害をとらえ、それらに対する具体的な治療法について深く学ぶ。特に作業療法士が深くかかわる運動器リハビリテーション(技術や知識の習得)について、その理論と実践を学習する。							
到達目標							
①関節可動域訓練の理論と方法について説明出来る ②関節モビライゼーションテクニックについての理論と方法について説明出来る ③ストレッチングについて説明できる							
授業の方法							
講義及び演習形態で実施していく。 関節可動域制限について例題を出し、それをグループにて考え導き出す、Active learningを用いる							
ICT活用							
Google formを活用して、復習動画や確認テストを実施し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし,身体障害作業療法治療学特論(運動器)の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックしていきます

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	関節可動域訓練の理論と実際①	関節可動域訓練について予習する. 90分	関節可動域訓練について復習する. 90分
担当教員			
第2回	関節可動域訓練の理論と実際②	関節可動域訓練について予習する. 90分	関節可動域訓練について復習する. 90分
担当教員			
第3回	関節モビライゼーション・テクニック① その理論と方法	関節モビライゼーション・テクニックについて予習する 90分	関節モビライゼーション・テクニックについて復習する 90分
担当教員			
第4回	関節モビライゼーション・テクニック② その理論と方法	関節モビライゼーション・テクニックについて予習する 90分	関節モビライゼーション・テクニックについて復習する 90分
担当教員			

第5回	ストレッチング① その理論と実際	ストレッチングについて予習する 90分	ストレッチングについて復習する 90分
担当教員			
第6回	ストレッチング② その理論と実際	ストレッチングについて予習する 90分	ストレッチングについて復習する 90分
担当教員			
第7回	体幹に対する運動療法・作業療法①	体幹機能の評価・治療について 予習する 90分	体幹機能の評価・治療について 復習する 90分
担当教員			
第8回	体幹に対する運動療法・作業療法②	体幹機能の評価・治療について 予習する 90分	体幹機能の評価・治療について 復習する 90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	レポート、授業態度、出席状況から総合的に判定する	
その他	0	特になし	
教科書			

指定しない

参考文献

徒手の理学療法, 藤縄理, 三輪書店

履修条件・留意事項等

KC着用にて授業を受けること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		身体障害作業療法治療学特論Ⅱ（中枢系）				ナンバリング	3511
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、金 京室						
授業の位置づけ							
作業療法を実践するために必要な知識・技術を身につけるための科目である。根拠に基づく作業療法の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる能力をつけるための科目である。ディプロマポリシーの「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。（関心・意欲・態度）」と関連する。「中枢神経系障害作業療法学」「リハビリテーション障害学」「運動器障害作業療法学」「内部障害作業療法学」を基に実施していく。							
授業の概要							
中枢神経障害に対する作業療法の理論的背景、実践的な評価および治療技術を学ぶため、グループによる演習などを行う。							
到達目標							
1.中枢神経障害の介入に必要な作業療法の評価について基本的技法を実施することができる。 2.中枢神経障害に対する評価結果に基づいた解釈を行い、適切な目標設定が立案できる。 3.目標立案までの一連の流れをまとめ、プレゼンテーションすることができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物（ハンドアウト）を用いた方法を説明したのち、グループによる実技練習を行う。授業終了時にコメントシートに質問や感想を記入してもらい、次の授業始めにフィードバックする。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

金谷ならびに金は、リハビリテーション病院において作業療法士としての勤務経験があり、中枢神経系疾患について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。加えて、臨床経験が豊富な作業療法士2名をゲスト講師として迎え、より実践的な学び場を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業のコメント・質問を踏まえ、授業始めに口頭・実演などを用いたフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中枢神経系障害の障害像および脳卒中の情報収集・面接	脳卒中における情報収集・面接方法について予習する(90分)	脳卒中における情報収集・面接方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	脳卒中の評価:Top-downやBottom-upアプローチに基づく評価	脳卒中におけるTop-downやBottom-upアプローチに基づく評価方法について予習する(90分)	脳卒中におけるTop-downやBottom-upアプローチに基づく評価方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	ICFに基いた問題点抽出・目標設定	ICFに基いた問題点抽出・目標設定方法について予習する(90分)	ICFに基いた問題点抽出・目標設定方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	治療プログラムの紹介と実践	治療プログラムに方法について予習する(90分)	治療プログラムに方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第5回	生活行為向上マネジメント(MTDLP)に基づく作業療法介入①(ゲスト講師:森田)	MTDLPに基づいた問題点抽出・目標設定方法について予習する(90分)	MTDLPに基づいた問題点抽出・目標設定方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	MTDLPに基づく作業療法介入②(ゲスト講師:森田)	治療プログラムに方法について予習する(90分)	治療プログラムに方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第7回	脳卒中患者の自動車運転評価・支援の理論と実践①(ゲスト講師:山田)	脳卒中患者の自動車運転の評価方法について予習する(90分)	脳卒中患者の自動車運転の評価・支援方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	脳卒中患者の自動車運転評価・支援の理論と実践②(ゲスト講師:山田)	脳卒中患者の自動車運転の評価方法について予習する(90分)	脳卒中患者の自動車運転の評価・支援方法について復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(80%)・出席態度(20%)	
その他	0	なし	
教科書			

特に指定しない

参考文献

特に指定しない

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

特になし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		生活行為向上作業療法学				ナンバリング	3542
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる能力」、「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識」を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。（関心・意欲・態度）」と関連する。 基礎作業学、作業分析学実習と関連する。							
授業の概要							
私たちの生活は、日常生活における身の周りの動作が滞りなくできるだけでなく、人にとって「意味のある、したい作業」を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、健康で充実した生活を送ることができている。しかし、加齢や病気による心身機能の低下により、これまでできていた生活行為が困難になる等、生活をする上で様々な作業の作り直しが求められる。本講義では、生活意欲を高めるものとなる「意味のある、したい生活行為」を再び行えるようにする生活行為向上のための支援のあり方、評価ツールの使用方法、支援の提案の仕方を学習する。							
到達目標							
①生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について理解する。 ②生活行為向上マネジメントツールについて理解し、実践できるようになる。							
授業の方法							
配布プリントによる講義形式の知識伝達と事例演習を各回組み合わせて実施する。							
ICT活用							
googleclassroomを用いた講義資料の開示と、講義時間以外の双方向性の質疑応答を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

臨床経験の長い作業療法士により、学生に資料を提示し、解説をしたりすることで、学生が事例を多角的総合的視点で捉え直すことができるように導く。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題(事例報告)について個別に内容確認とよりよい事例となるよう前例を用いた解説を行う。また、googleclassroomを用いた双方向での質疑も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	生活行為向上マネジメントの背景と概要 オリエンテーション 生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について説明する。	基礎作業学の学習内容を復習しておく。(90分)	配布した資料に目を通し、学習した内容について整理する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第2回	生活行為向上マネジメントの面接技法 生活行為目標を引き出す面接技法について学習する。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	生活行為向上マネジメントにおけるアセスメント 生活行為アセスメントシートの作成を講義と演習を通して学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	生活行為向上マネジメントの目標設定 合意目標の設定方法について学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第5回	生活行為向上マネジメントの工程分析 生活行為工程分析について具体的方法を学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。 (90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	生活行為向上マネジメントのプログラム立案 工程分析を踏まえた、多職種を交えた包括的なプログラムの立案方法について事例演習を通して学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。 (90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第7回	生活行為向上マネジメントの立案プログラムの発表 作成したプログラムを他者に分かりやすく説明し、多様な視点があることを学習する。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。 (90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	生活行為向上マネジメントの有用性と活用例 生活行為向上マネジメントの有用性と活用例について学習する。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。 (90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度(50%) 演習中のグループワークの参加態度 レポート(50%) 講義内に提示する事例報告の作成状況	
その他	0		
教科書			

資料配布します

参考文献

日本作業療法士協会編・著/事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版/医歯薬出版

履修条件・留意事項等

8回の講義中に3回以上欠席があると単位の認定は不可

備考欄

講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う。30分以上の遅れは欠席扱いとする。
講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし、30分以上前に退席する場合は欠席とする。

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		精神障害作業療法治療学特論				ナンバリング	3536
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	大川 浩子、侘美 靖						
授業の位置づけ							
全てのディプロマ・ポリシーと関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」「精神障害作業療法治療学」「精神障害作業療法治療学演習」を基礎とし、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目である。							
授業の概要							
精神障害領域の作業療法の変化(対象、介入方法等)について学ぶ。特に、近年求められている地域における精神障害領域の作業療法実践について、知識を身につける。							
到達目標							
1. 近年増加している発達障害等の基本知識を確認し、評価から介入について計画できる。 2. 作業療法士が行っている地域移行及び就労支援(IPS、リワーク)について説明できる。 3. 運動や栄養が与えるメンタルヘルスへの影響が説明ができる。 4. 臨床実習及び国家試験に向けた学習方法が理解できる。							
授業の方法							
教科書及び配布資料を用いた講義とグループワーク形式の演習を実施する							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストは提出後、解説をします。レポートについては適宜、コメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	注目されている疾患①: 発達障害領域の疾患①～てんかんと知的障害に対する作業療法について 精神科領域における、てんかん、知的障害に対する作業療法を学ぶ	精神医学Ⅰ・Ⅱで学んだ疾患について確認する(60分)	「てんかん」「知的障害」の評価・介入についてまとめること(120分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	注目されている疾患②: 発達障害領域の疾患②～自閉症スペクトラム、ADHD(注意欠陥・多動性障害)に対する作業療法 精神障害作業療法治療学演習を踏まえ、精神科領域での発達障害に対する作業療法を学ぶ	精神障害と作業療法P304～315、生活を支援する精神障害作業療法P281～289、精神機能作業療法学P169～181を読む(60分)	「自閉症スペクトラム」「ADHD」の評価・介入方法についてまとめること(120分)
担当教員	大川 浩子		
第3回	精神障害領域における作業療法トピックス1: 退院促進地域移行と作業療法 退院促進の手法とケア会議について学ぶ。更には、日本作業療法協会が目指す、精神障害も含めた地域包括ケアについても理解を深める。	精神障害当事者の手記を1冊以上読むこと。(90分)	精神科病院退院後に利用できる社会資源についてまとめる。更に、地域生活で利用可能な資源についても確認する。(90分)
担当教員	大川 浩子		
第4回	精神障害領域における作業療法トピックス2: 就労支援と作業療法 うつ病の復職支援(リワーク)、精神障害者の就労支援(IPS、諸制度)について学ぶ。近年の制度の変化も確認し、知識の最新化を図る。	就労支援に関する取り組みについてWebなどを利用し、最新の情報を確認する。(60分)	就労支援で用いられる手法やモデルについてまとめる。また、各種制度についても確認し、まとめる。(120分)
担当教員	大川 浩子		

第5回	MTDLPと精神科作業療法 精神科領域の作業療法におけるMTDLPの活用について学ぶ。	作業療法評価学で学んだICFについて確認する。また、MTDLPについて配布資料で確認する(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員	大川 浩子		
第6回	食生活とメンタルヘルス 食生活が腸内環境や生活リズムを介して脳機能や精神状態に及ぼす影響について学ぶ。	偏食や食欲不振症(拒食・過食)などがもたらす心身への影響についてまとめておくこと。(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員	佐美 靖		
第7回	運動とメンタルヘルス 適切な強度の運動やスポーツ活動への参加によるメンタルヘルス改善効果について学ぶ。	運動強度の違いによる感情や気分への影響についてまとめておくこと。(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員	佐美 靖		
第8回	精神障害における作業療法のまとめ 確認テストによる精神障害領域の疾患ごとの作業療法(特徴と介入が中心)の確認を行う。	精神障害作業療法治療学(演習、特論を含む)で学んだ疾患ごとの特徴と介入方法について確認する。(60分)	レポート「評価計画と介入」を作成する(120分)
担当教員	大川 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(講義内課題・小テストを含む)(10%)	
その他	0		
教科書			

精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、
生活を支援する精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版

参考文献

必要に応じて講義で紹介します

履修条件・留意事項等

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。
新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		中枢神経障害作業療法学				ナンバリング	3502
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法専門領域の科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識および技能を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と関連する。リハビリテーション障害学、身体障害作業療法治療学特論Ⅱ(中枢系)、身体障害作業療法治療学実習と関連する。							
授業の概要							
作業療法の対象として多くを占めている中枢神経障害の発症機序や症状について学習する。また、中枢神経障害に対する評価・治療法の源泉となる基礎的な知識について学習する。							
到達目標							
1.中枢神経障害の発症機序・症状について述べることができる。 2.脳血管障害において、脳画像から出現し得る症状を予測できる。 3.各症状に対する評価手順について理解し、評価を実施できる。							
授業の方法							
教科書と配布印刷物を用いた用いた座学に加え、神経学的検査・評価方法については、習熟できるように実践演習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

金谷匡紘はリハビリテーション病院にて中枢神経障害患者を対象としたリハビリテーションを実践した経験を持ち、実際の臨床現場での経験も踏まえた講義を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

各回毎に理解度についての確認を行い、理解が不足している内容に対して講義内にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	中枢神経系の構造 中枢神経系の構造と機能について学習する。	これまでに学習した解剖学、生理学について事前に復習しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第2回	脳血管障害の理解① 脳動脈の構造について復習したうえで、脳血管障害(脳梗塞)の発症機序や全般的症状について学ぶ。また、症状と関連した脳画像の見方について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	脳血管障害の理解② 脳動脈の構造について復習したうえで、脳血管障害(脳出血およびその他の脳血管障害)の発症機序や全般的症状について学ぶ。また、症状と関連した脳画像の見方について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第4回	運動・感覚・自律神経① 運動神経・感覚神経の伝導経路や障害による症状について学び、各症状に対する評価方法について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第5回	運動・感覚・自律神経② まとめ 自律神経の伝導経路や障害による症状について学び、各症状に対する評価方法について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	神経・筋疾患の理解① 神経・筋疾患の代表的疾患である多発性硬化症(MS)、パーキンソン病(PD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)における発症機序や全般的症状について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第7回	神経・筋疾患の理解② 認知症(Alzheimer型認知症、脳血管性認知症、Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症)やてんかん、頭部外傷について発症機序や経過と症状、画像所見について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	中枢神経障害に対する作業療法の実践とまとめとテスト 中枢神経障害に対する作業療法実践についての説明と紹介を通して、臨床場面での中枢神経障害作業療法について学ぶ。 全8回の内容についての確認テストを行い、理解度についての確認と復習を行う。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外試験(70%)、授業への参加度(30%)	
その他	0		
教科書			

岡庭豊/病気がみえるVol.7 脳・神経/メディックメディア

参考文献

岩崎テル子ほか/作業療法評価学/医学書院
落合慈之/リハビリテーションビジュアルブック/学研メディカル秀潤社

履修条件・留意事項等

8回の講義中に3回欠席すると単位の認定は不可

備考欄

講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う。30分以上の遅れは欠席扱いとする。
講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし、30分以上前に退席する場合は欠席とする。

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		内部障害作業療法学				ナンバリング	3504
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、佐藤 明紀、森野 陽						
授業の位置づけ							
作業療法専門領域の科目であり、既習の基礎的な知識を臨床活動に向けて統合する思考過程をグループディスカッションなどを活用して「研鑽する場」とする。問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす能力を養うための科目である。ディプロマポリシーの「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」 「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)」と関連する。							
授業の概要							
呼吸器障害、循環器障害、代謝異常などの内部障害を惹起させる原因・要因を病理学的、臨床生理学的に解釈し、それらに対する評価・治療法の源泉となる基礎的な知識をについて学習する。また、高齢社会において重要な役割を担う作業療法士が行う地域包括活動や他職種連携業務に深く反映される「フィジカルアセスメント」にも触れる。							
到達目標							
・呼吸器、循環器障害への治療的介入方法を理解するうえで必要不可欠な臨床生理学的知識について理解することができる。 ・作業療法士が臨床の場で深く関わる糖尿病について、その病態や治療法について理解することができる。 ・地域医療に不可欠な緩和ケアの概要を理解することができる。 ・各疾患の作業療法評価と作業療法プログラムについて理解することができる。							
授業の方法							
・教科書用いて講義形式ですすめる。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題を実施した際には、講義内でフィードバックします。
 復習試験を実施した際には回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	内部障害とは(森野) ・内部障害の概要について理解する。 ・バイタルサインとは何かを知り、バイタルサインを測定する目的、測定方法を理解する。 ・吸引の基礎知識と吸引の方法を理解する。	教科書p14-37、p72-84を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第2回	呼吸器疾患(森野) ・呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎)についてその症状から身体所見を理解する。	教科書p-26-29、p48-54、p86-104を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第3回	循環器疾患(森野) ・心不全の病態生理を理解する。 ・虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)の病態生理を理解する。	教科書p110-119を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第4回	心電図(森野) ・刺激伝導系と心電図波形の関係について理解する。 ・標準12誘導の基本的波形を理解し、異常心電図による危険な不整脈を理解する。 ・心臓リハビリテーションについて理解する。	教科書p54-59を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。配布した心電図ドリルを見て不整脈の種類がわかるようになること。(90分)
担当教員	森野 陽		

第5回	糖尿病(森野) ・糖尿病の病態について理解する。 ・糖尿病の症状、合併症について理解する。	教科書p176～183を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第6回	下部尿路機能障害(森野) ・泌尿器系の解剖と生理を知り、蓄尿、排尿のしくみを理解する。 ・下部尿路症状の種類を知り、その原因となる疾患を理解する。	教科書p196～205を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第7回	免疫機能障害(森野) ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について、低免疫状態における病態について理解する。 復習テストと解説	事前に配布する資料に目を通しておくこと。(90分)	講義で配布した復習テストの問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第8回	がん・緩和ケア概論(佐藤) がんに対する特徴・症状などを理解し、緩和ケアの概念を含めたリハビリテーションについて臨床的視点から説明できるようにする。	教科書p131-157を読んでおくこと。(90分)	がん・緩和ケアに対する理解と関わりなどについて復習すること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第9回	呼吸器疾患と心疾患の作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。(金谷)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第10回	心臓リハビリテーションと作業療法評価、作業療法プログラムについて理解する。(金谷)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第11回	がんの作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。(金谷) 糖尿病の作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	サルコペニアとリハビリテーション栄養について理解する。(金谷) ・サルコペニアの定義と分類を理解する。 ・サルコペニアの作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。 ・リハビリテーション栄養について理解する。	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第13回	呼吸器系の基礎知識、気管カニューレ、肺痰法、人工呼吸器の取り扱いについて理解する。(金谷)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	実技を通して気管吸引の方法について理解する①。(金谷)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	実技を通して気管吸引の方法について理解する②。(金谷)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内の筆記テストならびに講義内の課題、授業への参加度を基に評価する。	

その他	0	なし
教科書		
身体障害作業療法学2 内部疾患編／小林隆司／羊土社		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		産業作業療法学				ナンバリング	3568
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」 「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」の一分野を学習し、予防的作業療法の基本的技術につなげる科目である。 公衆衛生学、地域作業療法学Ⅰ、地域作業療法学実習での学習や体験を踏まえ、産業労働者の健康生活支援に焦点を当てる。							
授業の概要							
産業労働者の健康問題を明らかにし、健康維持・向上を目標とした予防的作業療法の可能性について理解する。また生活・労働環境の調整、作業バランス、ストレスマネジメント法などについて講義する。また、障がい者の地域生活の現状と問題点にも触れ、地域生活者の「心身の健康」という広い視点で作業療法士の果たすべき役割を考察する。							
到達目標							
1. 産業労働者の心身の健康問題の現状と発生要因、その評価法を説明できる 2. 労働現場の健康問題、快適職場実現のための法律・管理システム・対処法を説明できる 3. 精神障害や疾病をもつ人の地域生活や就労の現状についてイメージを持ち説明できる 4. 労働者のメンタルヘルス問題とその対処法を説明できる							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物、動画等を用いて講義形式ですすめる。							
ICT活用							
小テストで、グーグルフォームを使用する予定である。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者は作業療法士資格の他に、第1種衛生管理者の資格を有し、これらの知識と経験に基づいて授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施し、これらの返却時にフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	産業保健 その1 産業衛生、労働衛生と産業衛生、労働に関わる法律を学習する	公衆衛生学で学んだ労働衛生や産業衛生を復習すること(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	産業保健 その2 労働者の健康問題:職業性疾病、作業関連性疾病などの筋骨格系の問題と対策を学ぶ	職業性疾病、作業関連性疾病にはどのようなものがあるかを予習すること(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	産業作業療法の可能性 職場の健康問題や労働災害の予防のために、作業療法士が貢献できることを学ぶ	職場の健康問題や労働災害にはどのようなものがあるかを調べておくこと(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第4回	産業作業療法の理解のために、人間工学的評価と思考、行動変容理論について学ぶ。	人間工学的評価と思考、行動変容理論について予習する(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第5回	労働者のストレスとメンタルヘルス ハラスメントや長時間労働によるうつ状態、ストレスチェック 法、ソーシャル・サポートとコーピングについて学ぶ。	労働者のストレスにはどのような ものがあるかを調べておくこと (90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	女性特有の労働対策と予防について、就労・復職支援対 策について学ぶ。	女性特有の労働問題、就労・復 職支援対策について調べる(90 分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第7回	地域に暮らす障がいを持つ方の生活や就労に関する作業 療法から考える(精神障害領域の訪問作業療法、就労支 援、デイケア作業療法から見えてくること)(ゲスト講師市島 OTR)	障がいのある方の就労支援制 度などについて調べておく(90 分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	まとめと定期外試験	これまでの授業内容、小テスト内 容を復習すること(90分)	試験内容を整理すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	小テスト(50%)、定期外試験(50%)	
その他	0		
教科書			

指定しない。

参考文献

予防と産業の理学療法／樋口由美／南江堂

履修条件・留意事項等

授業中には積極的に参加すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		地域作業療法学 I				ナンバリング	3562
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室、大川 浩子、大坂 隆介、小岩 伸之						
授業の位置づけ							
作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である(知識・技能)。リハビリテーション概論、作業療法概論の内容を踏まえ、地域作業療法学Ⅱ、地域作業療法学実習、作業療法管理運営・法規の基礎となる。							
</							

全ての教員は、地域で暮らす人々への作業療法介入の実務経験があり、それらの活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題に関しては授業時間にコメントします。レポートは返却時にコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	地域作業療法とは(大阪) 本科目の全体的な構成と「地域」のとらえ方、地域リハビリテーションの流れについて学ぶ。	教科書p3～36を読む。(30分)	「地域」「地域リハビリテーションの流れ」についてまとめる。(15分)
担当教員			
第2回	ダイバーショナルセラピー 基礎編(大阪・金) (ゲストスピーカー 芹澤隆子氏)ダイバーショナルセラピー概論と実践	ダイバーショナルセラピーについて調べておくこと(15分)	講義の内容をまとめ、復習すること(30分)
担当教員			
第3回	ダイバーショナルセラピー 基礎編(大阪) (ゲストスピーカー 芹澤隆子氏)ダイバーショナルセラピー概論と実践	ダイバーショナルセラピー協会HPを調べて事前学習をしておくこと(15分)	講義内容のまとめ、感想を書いて提出すること(30分)
担当教員			
第4回	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携①:制度・施策(小岩伸之氏) 地域作業療法と関連する制度・施策とのつながりを知る。 社会保障制度の枠組み及び施策の変遷を知り、介護保険、障害者総合支援法などについて理解を深める。	教科書p39～65を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員			

第5回	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携②:制度・施策(小岩伸之氏) 地域作業療法と関連する制度・施策とのつながりを知る。社会保障制度の枠組み及び施策の変遷を知り、介護保険、障害者総合支援法などについて理解を深める。	教科書p3～65を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員			
第6回	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携③:地域における多職種連携(小岩伸之氏) 地域における多職種連携とソーシャルサポートについて、具体例を交えて学ぶ。	教科書p66～85を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員			
第7回	地域作業療法の枠組み:支援プログラムとマネジメント(小岩伸之氏) 地域作業療法における個別支援プログラム、集団支援プログラムや地域づくりに関してアセスメントも含めた一連の流れについて学ぶ。	教科書p114～140を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員			
第8回	地域作業療法実践の場:就労支援 障害者総合支援法における就労支援サービスに加え、その他の就労支援に関する制度や作業療法士の役割について理解を深める。	教科書p249～254を読む。(30分)	講義で学んだ就労支援サービスについてまとめる。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第9回	地域作業療法実践の場:精神機能領域 精神機能領域における地域作業療法について学ぶ。特に、退院促進事業や司法精神領域、地域資源への関与について理解を深める。	教科書p168～173、241～248を読む。(30分)	地域の資源について興味を持ったものについてWebで調べる。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第10回	地域作業療法実践の場:身体機能領域(小岩伸之) 身体機能領域の病院における地域作業療法について学ぶ。具体例に加え、住環境の評価についても理解を深める。	教科書100～111、162～167を読む(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員			

第11回	地域作業療法実践の場:地域包括ケアシステム①(小岩伸之) 地域包括ケアシステムの概要について学ぶ。地域包括ケアシステムの実現を目指し枠組みが変更された、地域支援事業について背景や事業について理解を深める。	参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」のⅤを読む。(30分)	講義で学んだことをまとめ、復習をすること。(15分)
担当教員			
第12回	地域作業療法実践の場:発達支援 地域における発達支援に関して作業療法士の役割や地域への関わり方について学ぶ。	教科書p226～232を読む。(30分)	クラスルームで指定された課題を作成する。(15分)
担当教員	金 京室		
第13回	地域作業療法実践の場:地域包括ケアシステム②(小岩伸之) 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の視点や役割について学ぶ。特に作業療法士の役割が期待されているや各事業におけるポイントについて説明する。	参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」のⅢ・Ⅳを読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員			
第14回	地域作業療法実践の場:地域包括ケアシステム③(小岩伸之) 北海道の地域包括ケアシステムにおける作業療法士の実践について学ぶ。地域ごとの実践の違いについて理解を深める。	参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」のⅤを読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員			
第15回	地域作業療法実践の場:特別支援教育 特別支援教育も含めた教育領域における作業療法士の役割について学ぶ。	教科書p233～240を読む。(30分)	クラスルームで指定された課題を作成する。(15分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の取り組み20%、レポート課題50%、確認テスト30%	

その他	0	
教科書		
地域作業療法学第3版/大熊 明・加藤 朋子編/医学書院		
参考文献		
作業療法を観る/菊池恵美子・齋藤佑樹/シービーアール 作業療法マニュアル63作業療法士ができる地域支援事業への関わり方/宮永敬市・他/日本作業療法士協会 地域包括ケアシステム参画の手引き～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を用いて～/日本作業療法士協会地域包括ケアシステム推進委員会(Web)		
履修条件・留意事項等		
他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。ゲスト講師の日程は別途連絡しますので気をつけてください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		地域作業療法学Ⅱ				ナンバリング	3566
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 和彦						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「知識・技能」の「作業療法を実践するために必要な基本的技術を身につけている。」能力を育成する科目である。リハビリテーション概論、作業療法概論の内容を踏まえ、地域作業療法学演習、地域作業療法学実習のまとめとなり、作業療法管理運営・法規の基礎となる。							
授業の概要							
地域リハビリテーションの概念について理解を深め、生活障害に対するアプローチの具体的方法を学ぶ。また、介護予防や障がい福祉などの制度の枠組みとその問題点を理解し、地域づくりにおけるリハビリテーションの視点の重要性について考察する。							
到達目標							
1. 地域のとらえ方について説明ができる。 2. 地域作業療法を支える制度・施策について説明ができる。 3. 地域作業療法の枠組みや地域づくりについて説明ができる。 4. 地域作業療法における地域の活動について説明ができる。 5. 地域で活動する作業療法士の視点を説明ができる。							
授業の方法							
教科書・配布資料とパワーポイント等を用いて講義形式で知識を教授する。 各講義に関連するテーマついて、グループディスカッションやグループワークの時間を随時、設ける。 講義のまとめとして、確認テストを実施する。							
ICT活用							
特になし。							
実務経験のある教員の教育内容							

市町村衛生行政において作業療法士として勤務した経験を活かして、保健福祉に関する地域作業療法についての授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題に関しては授業時間にコメントします。レポートは返却時にコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション・地域作業療法とは ・地域包括ケアシステムについて 本科目の全体的な構成と「地域」のとらえ方、地域作業療法の対象・目的・内容等について学ぶ。介護保険制度の概要を学ぶ。地域包括ケアシステムの背景を理解して、地域包括ケアシステムの概要を学ぶ。	教科書p2～19、p114～142を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIを読む。(45分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 和彦		
第2回	・介護予防について 総合事業、介護予防事業の基本的な枠組みを学ぶ。運動器・口腔機能・認知症・うつ閉じこもり等の介護予防事業について学ぶ。	教科書p26～33、p158～182を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIVを読む。(45分)	健康づくりの活動(体操)について調べ、発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員	佐藤 和彦		
第3回	・介護予防評価について ・健康づくりの活動について 介護予防事業に使用する評価を学ぶ。健康づくりのための体操について、自身で調べ発表する。	教科書p144～155、p184～201を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のVを読む。(45分)	講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 和彦		
第4回	・住民主体の介護予防について 住民主体で行う適切な運動を学ぶ。地域づくりによる介護予防を学び、地域での実際の取り組みを学ぶ。	教科書p87～111を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIIIを読む。(45分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 和彦		

第5回	・障害福祉サービスについて ・農福連携について 障害者総合支援法による障害福祉サービスの概要を学ぶ。 ・農福連携の取り組みを学ぶ。	参考文献 恵庭市農福連携成功事例集(Web)を読む。(90分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	佐藤 和彦		
第6回	・虐待防止について ・差別解消について ・地域健康教育について 障害者虐待防止法による虐待の防止について学ぶ。 障害者差別解消法による差別解消について学ぶ。 地域健康教育について学ぶ。	参考文献 市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応の手引き(Web)を読む。(90分)	地域健康教育について調べ、発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員	佐藤 和彦		
第7回	・認知症施策について 新オレンジプランに基づく認知症施策の内容を学び、具体的な事例を学ぶ。	参考文献 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)(Web)を読む。(90分)	グループ発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員	佐藤 和彦		
第8回	・地域健康教育について グループで地域健康教育を実施して、討議する。	各グループの健康教育資料を読む。(90分)	グループ発表で学んだことをレポートにまとめる(90分)
担当教員	佐藤 和彦		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の取り組み20%、レポート課題40%、確認テスト40%	
その他	0		
教科書			

地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ/田中 康之・清水 順市編/文光堂

参考文献

- ・作業療法学全書改訂第3版第13巻地域作業療法学/太田睦美/協同医書出版社
- ・地域包括ケアシステム参画の手引き～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を用いて～/日本作業療法士協会地域包括ケアシステム推進委員会(Web)
- ・恵庭市農福連携成功事例集/恵庭市農福連携による障がい者等就労促進ネットワーク・恵庭市(Web)
- ・市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応の手引き/厚生労働省(Web)
- ・認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)/厚生労働省(Web)

履修条件・留意事項等

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		地域作業療法学実習				ナンバリング	3564
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	1
担当教員	大川 浩子、侘美 靖、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
対象者の自律性と主体性に関心を持ち尊重できる能力を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシー「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。地域作業療法学Ⅰを基礎とし、地域作業療法学Ⅱ、地域包括ケアシステム論へと応用的な学習に発展する。							
授業の概要							
地域リハビリテーションに関わる施設を見学し、さまざまな地域生活支援サービスの実践について学ぶ。利用者と接することによって、生活の障害について現実的に、詳細に理解し、ニーズを把握する経験を積む。また、そこで働くスタッフをモデルとし、支援者となるために必要な態度や姿勢を学ぶ。							
到達目標							
1. 見学施設の役割と機能を理解する。 2. 地域生活支援に関わるサービス内容とその利用の流れについて实际的に理解する。 3. 障がい児・者や高齢者が地域で暮らすとは実際にはどのようなことか？ 具体的なイメージをつかむ。 4. 配置施設の状況に合わせて利用者のレクリエーション支援やQOLの向上に役立つ評価または実践を試みることができる。							
授業の方法							
学生が数名単位で、様々な学外の福祉施設、事業所に出向き、1週間の見学および模倣を中心とした実習を行う。実習前後にはグループワークを実施し、コミュニケーションスキルを含めた準備性の向上をはかり、施設概要と各々の体験を全体でシェアする。							
ICT活用							
特になし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

事後セミナーにおいて、教員からのコメントの時間を設け口頭でフィードバックを行う。個別指導が必要な学生の場合は、担当を決めて面談し自己省察が深まるように関わる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーション・事前指導 自己紹介用紙の作成、地域における学生の振る舞いについて指導する。	実習指導要領を確認すること	事前指導で指導された自己の課題について、振り返り、対応を考えること
担当教員			
第2回	実習施設にて、指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、体験を行う。	実習中の疑問点は教科書等で調べ、また積極的に指導者に確認すること。	実習で学んだ事、得た知識等をデイリーに記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員			
第3回	事後セミナーで体験をまとめ報告する。グループワークを通じ、実習で得た経験を共有する。今後の学外実習にむけた学習課題の確認を行う。	グループでの発表準備を行う。	事後指導を通じて得られた、自分の今後の課題についてまとめる。
担当教員			
第4回			
担当教員			

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学外実習の学習態度および事前事後指導における態度と提出物、実習報告書を総合して判断する。	

その他	0	
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領 地域作業療法学第3版/大熊 明・加藤 朋子編/医学書院		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
一週間の学外実習と、実習前週の事前指導、実習終了翌週の事後指導を合わせ45時間で1単位となる科目のため、事前事後指導への参加は必須である。		
備考欄		
学内振替実習になる場合は、別途説明する。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		評価実習				ナンバリング	3703
配当年次	3年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	4
担当教員	金子 翔拓、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
作業療法を実践するために必要な知識、技術を用いて必要な情報を収集し、分析、整理したうえで論理的な解決方法を見出す能力を養うための科目である。対象者の自立性と主体性に関心を持ち尊重できる能力を身につけるための科目でもある。ディプロマ・ポリシーの「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。また、その他全てのディプロマ・ポリシーと関係している。3年生前期までに配置される専門基礎科目、専門科目を統合する科目であり、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目 である。							
授業の概要							
1年、2年及び3年前期までに学習した作業療法の知識をもとに、臨床教育者によるクリニカルクラークシップの指導手法を通じて、対象患者の障害像と治療目標を把握し、プログラムの立案・治療・再評価のプロセスやその思考過程についての経験知を高める。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害領域等から実習地が決定される。							
到達目標							
1. 作業療法実習生として責任と良識のある行動をする 2. 臨床実習施設における作業療法部門の機能と役割、管理運営について理解する 3. 臨床教育者の指導、管理の下、対象者に適切な評価を見学、模倣、実施する 4. 臨床教育者の指導、管理の下、対象者に適切な治療および援助を見学、模倣、実施する 5. 対象者に行う評価、治療、援助に関する意味やリスクを理解する 6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録、報告を行う							
授業の方法							
事前事後学習として、学内での講義、実技練習、グループワーク形式での演習を実施。実習施設ではクリニカルクラークシップ方式で臨床教育者(CE)による指導の元、見学、模倣、実施の順に進める。							
ICT活用							
Google formを活用して評価方法の指導や知識を共有し、自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

事前事後・実習期間中、科目担当・各学生担当教員はCEと連絡を密にして学生状況を把握。集団・個別指導を討論・電話・メール・面談等によって臨機応変に実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	評価実習オリエンテーションと事前指導:評価実習の到達目標を理解し、各専門領域における面接、観察、検査・測定と作業療法プログラム立案の方法を確認する。対象者の全体像をまとめ、作業療法の立案・計画を行う作業療法実践の流れを理解する。	臨床実習指導要領を読み、臨床実習の取り組みを確認する。また、各領域の事前指導に向けた自己学習に取り組む。(90分)	実習施設への事前電話をする。また、事前指導を踏まえ、把握された自己の課題について取り組む。(90分)
担当教員			
第2回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第3回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第4回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			

第5回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第6回	評価実習セミナー、事後指導:対象者への作業療法過程について、サマリーを作成し、発表する。グループでディスカッションやプレイバックシアター(PB)等を行い、実習で得た経験を共有する。総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにむけた学習課題の確認を行い、必要に応じ面談や実技試験を実施する。	学内教員の指導を受けて、サマリーを作成・完成させる。更に、グループでの発表練習をする。(180分)	グループディスカッションやPBの経験を各自でまとめる。その上で、自分今後の課題について集団・個別指導を受けて解決への計画を立てる。(90分)
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導、実習の取り組み状況、プレイバックシアターを含めた事後指導によって総合的に判断	

その他	0	特になし
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		
各専門基礎科目・専門科目の教科書、参考書		
履修条件・留意事項等		
3年次前期までの必修科目が全て取得見込みで、B-OSCEに合格していることが履修条件となる。 新型コロナウイルスの蔓延等により学内実習に振替を行う場合は、後日、改めて詳細を説明する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 作業療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		訪問・通所実習				ナンバリング	3702
配当年次	2年	開講学期	2023年後期	区分	実習	単位	2
担当教員	大川 浩子、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
見学実習で体験した経験に加え、通所や訪問の作業療法を見学・体験し、作業療法の実践を学ぶ科目である。ディプロマポリシー「作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ」「総合臨床実習Ⅱ」及び、作業療法評価学や作業療法治療学の基礎となる。							
授業の概要							
居宅要介護者の通所リハビリや訪問リハビリの現場を見学・体験する事で作業療法の職業的イメージを深める。主に作業療法の職務内容を見学し、チーム医療における作業療法の役割を学習する。							
到達目標							
・通所・訪問リハビリにおける作業療法の役割を説明できる ・社会的ニーズの多様化に対応した作業療法実践への理解を深まる ・チームの一員としての連携の方法を習得し、責任と自覚を培う							
授業の方法							
通所・訪問実習は病院の外来、デイケア、老人保健施設、訪問リハビリテーションセンター等にて行う。実習の事前指導として高齢者への理解、高齢者との接し方、地域包括システムなどの基本知識を学習し、事後指導ではそれぞれの実習内容をまとめ、学内セミナーにて発表する。							
ICT活用							
特になし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

事後セミナーの中で、振り返りの時間を設け、ディスカッションの形でフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーション・事前指導 高齢者の心身機能の特徴、高齢者とのコミュニケーション方法や地域包括ケアシステムなど基礎知識を学習する。	実習指導要領を確認すること	実習配置施設について調べ、確認すること
担当教員			
第2回	実習施設にて、臨床教育者(CE)の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	実習中の疑問点は教科書等で調べ、また積極的にCEに確認すること。	実習で学んだ事、得た知識等をデイリーに記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員			
第3回	実習施設にて、臨床教育者(CE)の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	実習中の疑問点は教科書等で調べ、また積極的にCEに確認すること。	実習で学んだ事、得た知識等をデイリーに記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員			
第4回	事後セミナーでサマリーをまとめ報告する。グループワークを通じ、実習で得た経験を共有する。今後の学外実習にむけた学習課題の確認を行う。	グループでの発表準備を行う。	事後指導を通じて得られた、自分の今後の課題についてまとめる。
担当教員			

第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			
第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			
第10回			
担当教員			

第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			
第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学外実習の学習態度および事前事後指導における態度と提出物、実習報告書を総合して判断する。	

その他	0	
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
医療人・社会人としての基本的なマナーを身につけていること。 事前指導および事後指導は必ず出席すること。 医療現場に参加する事の重みを自覚すること。 学内振替の場合は、別途説明する。		
備考欄		